

NEWS LETTER

No.



2008
DECEMBER

リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology



有限責任中間法人

日本リウマチ学会



LOXONIN

経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤 薬価基準収載


ロキソニン[®]

パップ[®]100mg

指定医薬品 ロキソプロフェンナトリウム水和物貼付剤

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。


製造販売元
 **リードケミカル株式会社**
〒930-0912 富山県富山市日保77-3

販売元(資料請求先)
 **第一三共株式会社**
東京都中央区日本橋本町3-5-1

0704 (0811)

 非ステロイド性消炎・鎮痛剤 薬価基準収載
モービック[®]錠5mg・10mg
MOBIC[®] TABLETS 5mg・10mg (メロキシカム製剤)
劇薬/指定医薬品

※効能・効果、用法・用量、禁忌および使用上の注意等については添付文書等をご参照ください。

販売元(資料請求先)
 **第一三共株式会社**
東京都中央区日本橋本町3-5-1

製造販売元
 **Boehringer Ingelheim** 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
東京都品川区大崎2丁目1番1号



0704 (0711)



田中良哉

産業医科大学医学部第一内科学講座

生物学的製剤による革命

生物学的製剤の導入は関節リウマチ(RA)の治療にパラダイムシフトを齎したが、病態解明、基礎研究、専門医療にまで変化を促そうとしている。周知のように、TNF阻害薬はRAの疾患活動性を制御し、関節破壊の進行を抑制した。さらに、QOLや生命予後を改善し、糖尿病や高脂血症などの他の内科疾患と同様、治療のエンドポイントを生命予後に置くことを可能とし、RAの治療は今や他分野をリードしつつある。さらに、生物学的製剤を用いた治療は、多様な自己免疫疾患の治療へも展開され、治療のパラダイムシフトは確実に拡大しつつある。

免疫学の進歩はRAを自己免疫疾患に位置付け、病態形成に重要な分子としてTNF α を特定した。そして、モノクローナル抗体技術という免疫学的手法は、RAという免疫難病の治療にトランスレーションされ、臨床医のみならず基礎研究者にも勇気を与えた。逆に、TNF阻害薬の臨床効果は、TNFが免疫系を超えて骨、脂質、血管などの代謝系でも重要な役割を有することを想定させた。また、IL-1の標的治療は芳しい結果が得られず、標的分子の基礎的、病態的意義の再考を強いられた。こうして、TNF阻害薬の成功は、ベッドサイドからベンチへの逆方向のトランスレーションを再興する契機にもなった。

一方、生物学的製剤は特定の標的を「ノックアウト」するが故に、時に重篤な副作用を生じる。TNF阻害薬によるニューモシスティス肺炎や間質性肺炎は欧米より高頻度で、また、IL-6阻害薬の使用ではCRPや発熱が抑制され、感染症の早期発見は症状や所見に頼らざるを得ず、臨床医の力量が問われる。本学会で承認したTNF阻害療法施行のガイドラインの普及により、結核の発症を最小限で抑制し得たが、生物学的製剤を使用する専門医には、重篤な副作用の管理や治療が要求されるようになってきた。専門医教育を通じて的確な治療の実践を啓発し、地域格差や施設間格差を是正することが可及的な課題となった。

また、TNF阻害薬といえども寛解導入率は約3割に過ぎず、自己免疫制御という観点からの治療の開発が期待される。ただ、自己免疫疾患の多くは、複数の遺伝要因と環境要因が絡み合う多因子疾患であるが、RAに対するTNF阻害薬の治療効果は、病態や病態の形成過程を制御すれば免疫異常をリセットして、原因は残ったままで治療できる可能性を示唆し、原因を突き止めて治療を目指すという本来の治療概念を脱却しつつある。さらに、治療と共に目指すべきものは、再生医療を駆使した関節などの破壊臓器の修復である。今こそ、内科、整形外科、基礎医学の間のクロストークを最大限に賦活化し、オールジャパンで取り組めば、世界に先駆けて治療や再生を目指したりウマチ性疾患治療を展開できるはずである。

計 報

第53回日本リウマチ学会総会・学術集会 井上和彦会長(東京女子医科大学東医療センター 整形外科・リウマチ科 教授)におかれましては、12月1日午後4時46分ご逝去されました。
ここに生前のご功績、ご厚誼に感謝し、謹んでお知らせ申し上げます。



第53回 日本リウマチ学会総会・学術集会 第18回 国際リウマチシンポジウム

心をひとつに ～治療への確信～

会期：2009年4月23日(木)～26日(日)／会長：井上和彦(東京女子医科大学東医療センター 整形外科・リウマチ科 教授)／会場：グランドプリンスホテル新高輪

主な日程

●4月22日(水) (前日)

15:00-17:00 評議員会 17:00-17:40 開会式 17:40-18:10 スペシャルレクチャー 18:20-20:30 会員懇親会

●4月23日(木)

08:00-17:00 ポスター、ワークショップ、シンポジウム、
教育研修講演、他
09:30-11:30 社員総会・会長講演・学会賞・奨励賞受賞者講演
14:30-17:00 国際リウマチシンポジウム
17:30-19:30 サテライトシンポジウム

●4月25日(土)

08:30-17:00 ポスター、ワークショップ、シンポジウム、
教育研修講演、他
09:00-11:30 国際リウマチシンポジウム
17:00- 閉会式

●4月24日(金)

08:00-17:00 ポスター、ワークショップ、シンポジウム、
教育研修講演、他
09:30-12:00 国際リウマチシンポジウム
17:30-20:00 サテライトシンポジウム

●4月26日(日)

08:00-17:00 アニュアルコースレクチャー
10:00-12:00 コメディカル合同シンポジウム
14:30-17:00 市民公開講座

セッション

1	シンポジウム(S)	10セッション
2	スポンサーシンポジウム(SS)	2セッション
3	一般演題(ワークショップ)(W)	48セッション
4	一般演題(ポスターセッション)(PS)	45セッション
5	国際シンポジウム(IS)	3セッション
6	国際ワークショップ(IW)	2セッション
7	教育研修講演(EL)	11セッション
8	カトリア教育研修講演(CEK)	5セッション
9	会長講演	1セッション

10	特別講演	1セッション
11	モーニングレクチャー(ML)	1セッション
12	ランチョンセミナー(L)	25セッション
13	サテライトシンポジウム(SLS)	8セッション
14	市民公開講座	1セッション
15	コメディカル合同シンポジウム	1セッション
16	アニュアルコースレクチャー(ACL)	7セッション
17	パネルディスカッション	4セッション

主なプログラム

1. シンポジウム

シンポジウム 1	『リウマチ性疾患に対するトシリズマブ治療 一臨床的位置づけと効果発現メカニズム』
座長	西本 恵弘 (和歌山県立医科大学大学院医学研究科免疫制御学) 横田 俊平 (横浜市立大学大学院医学研究科発生・小児医療学)
シンポジウム 2	『自己免疫疾患の新規治療』
座長	田中 良哉 (産業医科大学第一内科学) 廣畑 俊成 (北里大学医学部膠原病・リウマチ感染内科)
シンポジウム 3	『生物学的製剤使用下での手術のタイミング』
座長	勝田 敏 (東邦大学医学部整形外科) 中村 孝志 (京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座整形外科学)
シンポジウム 4	『リウマチ性疾患の病因・病態解明の進歩』
座長	三森 経世 (京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学) 高崎 芳成 (順天堂大学医学部膠原病内科)
シンポジウム 5	『OAの病態と診断』
座長	岩本 幸英 (九州大学大学院医学研究科整形外科) 木村 友厚 (富山大学医学部整形外科)

シンポジウム 6	『リウマチ性疾患の長期アウトカム』
座長	山中 寿 (東京女子医科大学竹富膠原病リウマチ増進センター リウマチ膠原病内科) 針谷 正洋 (東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科歯槽顎裂学講座)
シンポジウム 7	『関節リウマチの集学的診療』
座長	豊島 良太 (鳥取大学医学部整形外科) 山本 一彦 (東京大学医学部アレルギー・リウマチ内科)
シンポジウム 8	『TNF阻害療法最新エビデンス』
座長	竹内 勤 (埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科) 石黒 直樹 (名古屋大学大学院医学系研究科整形外科学)
シンポジウム 9	『リウマチ診断学の進歩』
座長	住田 孝之 (筑波大学大学院人間総合科学研究科先端応用医学専攻臨床免疫学) 江口 勝美 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科基礎医学講座(第一内科))
シンポジウム 10	『小児リウマチに対する分子標的治療薬の進歩』
座長	武井 修治 (鹿児島大学医学部基礎科学科母性小児看護学講座) 稲毛 康司 (日本大学練馬光が丘病院小児科)

2. アニュアルコースレクチャー

1	「小児リウマチ性疾患の診断と治療」 演者：武井修治(鹿児島大学医学部保健学科母性小児看護学講座 教授)	5	「関節リウマチの薬物療法 2 ～生物学的製剤～」 演者：山中 寿(東京女子医科大学附属関節リウマチ総合センター リウマチ膠原病内科 教授)
2	「膠原病を含むリウマチ性疾患の鑑別」 演者：廣知俊成(北里大学医学部膠原病・リウマチ感染症内科 教授)	6	「関節リウマチ ～いつどのようなときに整形外科に依頼するか～手術の適応、合併症、成績」 演者：田中 栄(東京大学医学部整形外科 准教授)
3	「関節リウマチの診断と検査の実態」 演者：高崎芳成(順天堂大学医学部膠原病内科学 教授)	7	「関節リウマチのリハビリテーションの実態」 演者：村澤 章(新潟県立リウマチセンター 院長)
4	「関節リウマチの薬物療法 1 ～DMARDs, NSAIDs, ステロイドなど(生物学的製剤を除く)～」 演者：川合眞一(東邦大学医療センター大森病院膠原病科 教授)		

事前参加登録のお知らせ

◇参加費

アニュアルコースレクチャー	5,000円
学会参加費 (事前参加登録)	18,000円
学会参加費 (当日参加登録)	20,000円
コメディカル (事前参加登録)	3,000円
コメディカル (当日参加登録)	4,000円
初期臨床研修 (身分証要)	5,000円
医学部学生 (学生証要)	3,000円
会員懇親会	3,000円

◇事前参加申込みページ

<https://apollon.nta.co.jp/jcr2009-jer/>
(2009年2月28日締切り)

◇ランチョンセミナー及びサテライトシンポジウムの事前予約に関して

JCR2009ではランチョンセミナー及びサテライトシンポジウムに対して、学会の事前参加登録と同時にご予約を頂きます。ランチョンセミナー及びサテライトシンポジウムの事前予約は、定員になり次第締め切らせて頂きます。また、ランチョンセミナー及びサテライトシンポジウムの事前予約は、事前参加登録をなさって頂いた方のみ応募可能となっております。

尚、当日券のご用意もございますので万一ご予約ができなかった場合につきましては、当日券のご利用をお願い致します。

また、一度事前参加登録をして頂きました場合、取り消しは致しかねますのでご了承下さい。学会当日の混雑緩和のためご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学術集会事務局からのお知らせ

◇演題募集終了のご報告

演題募集は11月27日(木)で締切られました。会員各位の多大なるご協力を得まして多くの演題が集まりましたことを学術集会事務局一同、厚く御礼申し上げます。年末年始にかけて、抄録の査読、プログラム編集作業へと入っております。

＊ ワークショップ・ポスターの演題振り分けは学術集会事務局にご一任下さい。

◇採択通知について

1月下旬に電子メールにて通知いたします。その他ご案内は随時ホームページ(<http://www.jcr2009.com>)をご確認ください。

◇電子ポスターについて

電子ポスター発表に採択された方は、会期の一ヶ月前である2009年2月23日(月)～3月23日(月)までにインターネット上からPower Pointデータをオンライン登録して頂きます。上記期間内であれば内容の変更は可能です。

詳細については学術集会ホームページ(<http://www.jcr2009.com>)をご確認ください。

連絡先

◇学術集会本部事務局／国際シンポジウム事務局

東京女子医科大学東医療センター 整形外科・リウマチ科 〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10
TEL: 03-3810-2900 FAX: 03-3810-9934

◇学術集会運営事務局

株式会社ライブ コンベンション事業部 〒104-0041 東京都中央区新富2-3-10 銀座イーストシティタワー505
TEL: 03-3552-4170 FAX: 03-3552-4178 E-mail: info@jcr2009.com

◇学会本部事務局

有限責任中間法人 日本リウマチ学会 〒105-0001 東京都港区虎の門1-1-24 第一オカモトヤビル9階
TEL: 03-5251-5353 FAX: 03-5251-5354 E-mail: gakkai@ryumachi-jp.com

The 18th International Rheumatology Symposium

Date : April 23-25, 2009

Venue : Grand Prince Hotel New Takanawa, Room6 Zuiko

13-1 Takanawa 3-chome Minato-ku, Tokyo 108-8612 Japan Phone : 81-3-3442-1111

JCR Committee on International Affairs

Japan College of Rheumatology (JCR)

Okamotoya Bldg. 9F 1-1-24 Toranomom, Minato-ku, Tokyo 105-0001, Japan

TEL : +81-3-5251-5353 FAX : +81-3-5251-5354

E-Mail : jcr@ryumachi-jp.com URL : <http://www.ryumachi-jp.com/english/>

Program (tentative)

Session 1 (Apr. 23, 14 : 30—17 : 00)

New Insights into Cartilage Biology and Degeneration (JCR-OARSI co-sponsored symposium)

chairs : Mary Goldring/Hiroshi Kawaguchi

1. "Cartilage degeneration during osteoarthritis progression" (Introduction)
Hiroshi Kawaguchi, The University of Tokyo, Japan
2. "Cartilage Degradation in Experimental Mice"
Amanda Fosang, University of Melbourne, Australia
3. "Cartilage degeneration, Osteoarthritis and patient's suffering where are we?"
Hyun Ah Kim, Hallym University Sacred Heart Hospital, Korea
4. "The role of VEGF and oxygen metabolites in cartilage metabolism"
Kazuo Yudoh, St.Marianna University School of Medicine, Japan
5. "Gene Expression in chondrocytes During Homeostasis and Osteoarthritis"
Mary Goldring, Hospital for Special Surgery, New York, USA

Session 2 (Apr. 24, 09 : 30—12 : 00)

Pathological and Genetic Approaches to Rheumatic Diseases

chairs : John Harley(planned)/Kazuhiko Yamamoto

1. "Recent progress of genetic studies in rheumatology" (Introduction)
Ryo Yamada, The University of Tokyo, Japan
2. "Genetic studies on SLE"
John Harley, Oklahoma Medical Research Foundation, USA
3. "Genetic studies on SLE"
Marta Alarcón-Riquelme, Uppsala University, Sweden
4. "Genetic studies on RA"
Mark Seielstad, Genome Institute of Singapore, Singapore
5. "Genetic studies on RA"
Yuta Kochi, Center for Genomic Medicine, Riken, Japan
6. "Ethnic differences"
Sang Cheol Bae, Hanyang University, Korea

Session 3 (Apr. 25, 09 : 00—11 : 30)

New Era for Early Diagnosis and Treatment in RA

chairs : Cornelia F. Allaart/Takayuki Sumida

1. "Efficacy of anti-CCP antibodies for Early Diagnosis of RA"
Tsuneyo Mimori, Kyoto University Graduate School of Medicine, Japan
2. "Early prediction of RA using MRI"
Katsumi Eguchi, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Japan
3. "Induction of Clinical Remission"
Cornelia F. Allaart, Leiden University Medical Center, Netherlands
4. "Maintenance of Clinical Remission"
Daniel Aletaha, University of Vienna, Austria
5. "New Biologics for RA in Japan"
Tsutomu Takeuchi, Saitama Medical Center, Saitama Medical School, Japan



樋野 興夫

順天堂大学医学部
病理・腫瘍学講座 教授
順天堂大学大学院医学研究科
環境と人間専攻
分子病理病態学 教授

がん哲学&がん哲学外来

はじめに

「がん哲学」とは若き日から学び続けている南原繁（戦後初代の東大総長の「政治哲学」と吉田富三（元癌研所長・東大教授・佐々木研究所長）の「がん学」をドッキングさせたものである（『がん哲学外来の話』小学館発行 参照）。

札幌で『「がん哲学」に学ぶ—クラーク精神の継承：新渡戸稲造・南原繁—』（秋山記念生命科学振興財団）の機会を与えられた。また、高松市での日本産婦人科学会中国・四国合同地方部会総会には、「がん哲学外来—がん医療の隙間—」の特別講演に招かれた。

南原繁（1889-1974）

先日は、長年の夢であった南原繁の出身地、香川県の三本松を訪れた。鴨下重彦先生と大坂峠の歌碑「幼くてわれの超えにし大坂峠に立ちて見放くるふるさとの町」の前にて、記念写真を撮ったのは、生涯の思い出となることであろう。峠より南原繁の「ふるさと」を望んだ。南原繁が卒業した大川中学校の後身、香川県立三本松高校の記念館に立ち寄った。「南原繁の歩みし道」の原点の確認の貴重な旅であった。田舎（島根県出雲大社）に生まれ育った筆者としては、何か相通するものを肌で感じた。

吉田富三（1903-1973）

吉田富三博士の長男で、NHKの名プロデューサーであった吉田直哉氏が先日、亡くなった（77歳）。吉田直哉氏との縁はもちろん、がん学の先達の父・吉田富三博士からであった。国立がんセンター名誉総長の杉村謙先生との『吉田富三を語る』対談をお願いしたところ、快く引き受けてくださった（『吉田富三の人間と学問』）。その翌年の吉田富三生誕100年記念事業にも、日本癌学会総会の吉田富三生誕100年記念シンポジウム『がん研究の温故創新』では「父・富三の興味と関心」と題して講演を頂いた（『日本の科学者 吉田富三』（メデカルトリビューン社発行）や拙著『われ21世紀の新渡戸とならん』（イーグレープ発行）の記念出版会にも積極的に加わっていただいた。尊敬する父親のことを控えめに、しかし素直に語る氏から、学問の偉業しか知らなかった吉田富三博士の人物、温かみをひしひしと感じ取ることができた。

また、がん患者としての体験も折にふれ語り、書き残されたことは、筆者の「がん哲学外来」構想に大いに刺激となった。冗談半分、本気半分を書いたことでも、励ましや共感をいただいたことでどんなに力を得たか計り知れない。順天堂大学での「がん哲学外来」の開設時にも、励ましのFAXを頂いた。思えば吉田富三・吉田直哉父子に、「恩」をいただいたとって過言でない。主著の1つ『私伝・吉田富三 癌細胞はこう語った』（文藝春秋社 発行）は名著である。

「癌という、内なる生命系を顕微鏡で観察しつづけた父は、そこに望遠鏡を使って見るほうの宇宙と同じ宇宙を見て、『戸を出ずして天下を知る』ような思索を重ねたユニークな人物だった」（吉田直哉）。ここに筆者の『がん哲学』（to be 出版）の原点があり、生涯の出会いである。医療問題が盛んに議論される昨今、「医者自らが問題提起することが重要であり、また意見だけ述べて動かない評論家に終わってならない」（北川知行『日本の科学者 吉田富三』（メデカルトリビューン社発行））と考え行動した吉田富三・吉田直哉父子の思想は、まさに「温故創新」である。医療界のみならず教育現場にも必要な「胆力」である。

「がん哲学」

NHK教育テレビ「視点・論点」に「がん哲学」と題して「がん哲学外来」について話す機会を与えられた。驚きである。「がん哲学」を最初に、公の活字にしたのは、確か2001年の日本学術会議の機関誌「学術の動向」であったと記憶している。これも時代の流れ、要請であろうか？

日本経済同友会の会員の会合でも「がん細胞から学ぶ人間社会論」のタイトルで講演する機会を与えられた。経済界でも「がん哲学」が少し浸透して来た証しであろうか？ 南原繁の「政治哲学」と吉田富三の「がん学」をドッキングさせた造語の時代的要請を感じるのは筆者のみであろうか？ 「自分のオリジナルで流行を作れ」とは、まさに吉田富三の精神である。

「陣営の外」で日々気づかされ、勉強である。これが「時の散」の学び方でもあろうか。

「がん哲学外来」

NPO法人「がん哲学外来」の具体的な設立手続きが進められている [Japan Medicine 2008年9月22日号]。これも時代の要請であろう。現に、横浜と東久留米では市民による新しい「対話型の場」の設定の試みが、「横浜がん哲学外来」「東久留米がん哲学外来」として開始されている。まさに「メディカルカフェの時代到来」の「事前の舵取り」を予感する。また、鎌田實先生（「がんサポート：2008年7月号」）、立花隆氏との対談（「がんサポート：2008年10月号&11月号」）や、坂東真理子氏との対談（「週刊ポスト」 2008年10月3日号）にも「がん哲学外来」が取り上げられた。

「おわりに」

科学としての「がん学」を極めることは、「森を見て木の皮まで見る」ことであり、「がん哲学外来」はマクロからミクロまでの手順を踏んだ「丁寧な大局観」を獲得する「厳密な訓練」の場でもある。

開業医からの視点

山前 邦臣

(医) 臣友会 新横浜山前クリニック

患者さんが先生。優しく、時に厳しく。

当院は1977年に開設、今年で32年目を迎えた。開業には米国への留学経験が大きなきっかけとなった。RAの権威テキサス大学(ダラス)のMorris Ziff教授の指導を受け、リンパ球を用いた研究に併行して、整形外科医、リハビリ医も加わったリウマチ専門外来での診療と病棟での症例検討であらゆるリウマチ性疾患を経験した。帰国後1年で、多数の患者こそリウマチ医の先生だとわかり開業した。1983年に神奈川県リウマチ医会を発足させ、地域でのリウマチ包括医療を目指して、内科、整形外科、リハビリ科のリウマチ医のネットワーク作りを行った。

リウマチ医療で最も重要なことは、早期診断と早期治療である。発病3か月以内に診断し、DMARDs複数併用で治療を開始する。全身の関節をよく診て、決して血液検査に惑わされないこと。赤沈、CRP、RF、抗CCP抗体などが陰性でも高画質X線写真で既に骨破壊が見られる症例は多数ある。乳腺撮影用フィルムを用いた手足のX線写真では通常のフィルムで写らない初期の滑膜増殖や骨破壊を発見し得る。MRI

やエコーに比べより早期に安価に診断できる。

患者教育も大切で、リウマチパスポートという手帳にデータ、RA解説、治療薬を記入し患者を自分の家族と捉えて、

RAとの戦争に勝つよう力づける。和英併記であり海外旅行や病診連携にも役立つ。データは翌日には目を通し、異常値の出た時は即刻電話で対策を指示している。RA患者の肥満はRA悪化、心血管イベント増大の原因となるので対策が必要である。病診連携は必須で、重症患者、合併症で聖マリアンナ医大のお世話になり、上級医師に週1回来てもらっている。他に各関節毎に手術の得意なリウマチ整形外科医を紹介している。

近年、生物学的製剤が早期RAにも有効と宣伝されているが、従来のDMARDsでも寛解導入、維持すれば骨破壊が修復されることを多数例で報告した。当院でも難治例や急速進行型

RAに使用するが、MTX 8 mg制限のため、十分なMTXを使う前に生物学的製剤へと流れていく風潮には大反対である。生物学的製剤でも無効例が多数ある。また、点滴は時間がかかり過ぎ、皮下注は薬液が酸性で痛いこと、患者一部負担金が高額過ぎること、時間や手間の割りに医療報酬が低額なこと等、早急な改革が必要である。



開業医からの視点篠原 聡
栃木リウマチ科クリニック 院長**リウマチ・膠原病の専門クリニックを開業して**

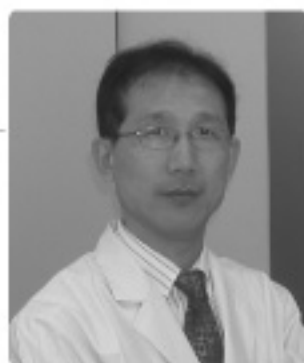
栃木県宇都宮市で開業して1年になります。医師、看護師、事務員各一名の小所帯で、電子カルテおよびCRを導入したペーパーレス・フィルムレス診療所です。

いきなり固い話で恐縮ですが、行政は保険点数を操作することにより、大学病院を含む大病院では入院を中心とした医療を行い、外来診療は大病院ではなく診療所で行うように誘導しています。入院診療という点では、リウマチ性疾患の入院は長期になりやすく、リウマチ科は不利な立場にあります。一方、外来診療はどうでしょうか。入院患者数に比べて多くの外来患者を抱えているのがリウマチ科の特徴だと思います。しかし、消化器科や循環器科と異なり保険点数の高い検査や治療法を持っていないので、大病院では外来患者を大勢診ても経営上のメリットはありません。生物学的製剤の登場により診療科としてのidentityを確立したリウマチ科ですが、どうも保険診療的には逆風下にあるようです。

リウマチ性疾患はいずれも全身性疾患です。臓器別に内科が細分化された現在では、全身を診ることが出来るリウマチ内科医は、総合医（家庭医）になる際には大変有利です。リウマチ科を標榜するにしても、一般内科の患者も診れば、経営が安定します。内科全体から見ればリウマチ性疾患の占める割合は圧倒的に少ないので、患者は一般内科ばかりになってしまいます。月日がたてばリウマチ科の専門性は薄れてしまうでしょう。一方、罹病率から考えれば関節リウマチの患者はそれなりにいるはずですが、ここにミスマッチがあると思います。リウマチ患者からは、リウマチ専門家が少ないのでかかりたくてもかかれないという声が聞こえてきます。実際、長年大学病院でリウマチ・膠原病の専門外来を担当してきましたが、外来患者を減らしたくても紹介先がなかなか見つからないのが現状です。そこでリウマチ・膠原病

の専門クリニックを作り、受け皿になったらお役に立てるのでないかと考えました。開業コンサルタントにはリウマチ科の専門クリニックは経営が成り立たないと強く反対されました。このためコンサルタントを使わずに、2007年12月に自力で開業にこぎ着けました。

いま、開業から1年になろうとしています。ご承知の通りリウマチ性疾患を診るには、時間がかかります。患者数が少ないこともあり、新患には1時間枠、再診患者には30分枠を割り当てて診ています。ですから、医師会が問題視している5分間ルールには、正直なところ違和感を覚えます。反対に、たとえば「15分刻みで診療時間に応じて料金が増す」というようなシステムにすると、患者さんも診察室に入る前に話をまとめてきてくれるのではないかと思ったりします。経営的にはコンサルタントの意見は正しかったと思います。しかし、何とか踏みとどまってリウマチ・膠原病の専門クリニックとして地域医療のお役に立ちたいと考えています。





大西 誠
道後温泉病院 リウマチセンター

これからのリウマチ診療への希望

道後温泉病院リウマチセンターは、ベッド数240床（療養病棟40床）の中規模病院で、急性期の形を取らずじっくりとリウマチ患者の診療が行える形式を取っています。急性期の形式でないからといって手術ができなかったり生物学的製剤が使えないといったこともなく、現医療制度上ではリウマチ診療に適した形態だと感じています。しかし現状は当院のようなリウマチセンターは珍しく、一般的には急性期の病院で診療することがほとんどだと思います。

生物学的製剤の登場でリウマチ診療が大きく様変わりし、これからは身体障害を負う方が減ってこられるかもしれませんが、現状まだまだ重度身体障害者の方たちがたくさんおられます。私が危惧するのはその重症の方たちを急性期病院の外來だけで十分な治療（生活指導やリハビリを含めた）が可能なのでしょうか。心筋梗塞や脳血管障害、大腿骨頸部骨折などの疾患には病診連携を用いた診療体制が構成されてきています。

関節リウマチについても各種関節手術後や生物学的製剤導入後の継続した治療に病診連携を用いた診療体制が必要ではないかと感じています。現医療制度では外來や一時的な入院で生物学的製剤を使用している施設が多いと思います。まだ関節障害がなく疾患活動性をコントロールするだけで、十分ADLが改善できるような方はよいのですが、既に身体障害があるような方に対して生物学的製剤などを使用して、疾患活動性をコントロールするだけで良い医療といえるのでしょうか。疾患活動性をコントロール後に回復期リハビリ病棟などで十分なりハビリを受けて（現医療制度では困難ですが）、ADLの改善ができて初めてよい医療といえるのではないのでしょうか。同様のことが人工関節手術後にもいえると思います。複数の関節に問題があるために手術後のリハビリに時間がかかる場合があると考えられます。

当院は幸い腰を据えたりウマチ診療が行っていますが、日々急性期病院の先生方のお話を聞くとかなりご苦勞があると思われまます。これからのリウマチ診療を考えると病診連携がやはり重要と考えます。

それぞれの地域でリハビリを得意とする病院と連携がとれてリウマチ診療ができるような事を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

らの視点

▲写真中央(筆者)

本庄 茂
済生会高岡病院

地方の勤務医の視点から 見たリウマチ診療

富山県は人口から推定するRA患者数に対して、生物学的製剤の使用率が全国で最も高い県ということです。その背景には大家族制が残っていて、しかも共稼ぎ率が非常に高い(老人になっても)ため、経済的に余裕があるということ(持ち家率、貯蓄高ともに日本一)。さらに先取の気質が強く、自分の身にとって有益なことは積極的に受け入れる傾向があります。そのため地方でありながら(高岡市の人口は18万人)当センターでは生物学的製剤の使用率が20%以上に達しており、延べ700例近くの症例が投与を受けております。

そのような背景にも助けられ、診療する側からすると質の高い医療を提供していると自負しているところではありますが、現実的には地方の中核病院(270床)ならではの苦勞があります。第一は人手不足で、一人の常勤医と3名の非常勤医で1500名以上のRA患者と、これだけの生物学的製剤の投与をこなさなくてはなりません。まさに孤軍奮闘です。また呼吸器内科専門医が少なく、危機的状況であります。地方の大学の医局はどこも入局者が激減しており、その中でRA診療を志す医師は皆無に近い状況です。また患者や家族に治療内容の理解を得ることに苦勞することもあり(詳しく病状や薬剤の説明をすればするほど逆効果)、さらには病院自身がRA診療に対して理解が乏しい(例えば薬剤費の支払いが高額と苦情が出る)などが悩みの種となっております。

大学病院のような専門的で学術的な職場に憧れ、夢見ながら多忙な日々を送っていると転職や開業を考えたりするわけですが、これもないものねだりかと自分を納得させながら悩み多い毎日を送っているわけでもあります。そのような状況の中で、外来のRA患者数が徐々に増加し、逆に以前のような重症のRA患者や手術件数が減少していく現実を見ると、自分の慰みになるどころです。スタッフの数が増えれば雑用も減って仕事にも余裕ができ、きちんと治療結果も評価してデータもまとめていけるのではと期待するのですが、現実はまだ当分は厳しそうです。研究会や講演会に参加してトップレベルの先生方の話を拝聴し刺激を受けることも、地方で診療を行う我々にとっては勉強になるのみでなく、最高の励みになると思っています。このように悩み、戸惑いながら日々の診療に疲れているのは自分だけなのか、それともまだまだ不惑の境地に達していない自分が若い(?)のか、他の勤務医の先生方はいかがなものでしょうか?貴重な第1回目は勤務医の愚痴コラムで失礼いたしました。



海外留学体験記



▲Dr. Carol Feghall-Bostwickのラボ。右端が筆者
安岡秀剛 慶應義塾大学

Pittsburghに滞在して

私は2005年2月よりPittsburgh大学内科学教室へ留学し、2008年1月まで在籍いたしました。Pittsburghは二つの川に挟まれた三角州に栄えたPennsylvania州第二の都市です。1世紀～半世紀前には物流の要所、鉄鋼業で繁栄「Capital of the world」と呼ばれる一方、公害のため別名「Smoky city」とも呼ばれていました。第二次世界大戦後は環境対策が進められ、学園・ハイテクの街として美しく再生、全米でも最も住みやすい都市になりました。また、芸術やスポーツも盛んで、アメリカでも有数の実力を有するピッツバーグ交響楽団、およびアメリカ4大スポーツのうち3つのチームがあり、音楽、スポーツ好きな私にとって大変ありがたい環境でした。

ところで私が勤務していたUniversity of Pittsburghは1787年に創設された名門大学です。医学部のレベルは高く全米で15位、大学病院は13位、Division of Rheumatologyは10位にランクされています。ピッツバーグは臓器移植が大変有名で、移植件数は全米一です。研究もこの特徴を生かしたものが多数行われています。またDivision of RheumatologyにはDr. Medsgerがいらっしゃり、全米より強皮症の患者さんが来院されています。私は、強皮症の病態に関する基礎研究をされており、現在は呼吸器内科で肺線維症の病態解析にも研究のフィールドを拡大されているDr. Carol Feghall-Bostwickのラボに留学していました。線維化は創傷治癒の過程において重要ですが、線維化疾患は線維化の制御が破綻することにより大量の細胞外マトリクスが沈着し、臓器の正常構造が破壊される点が問題です。生命を維持する重要な臓器に線維化が生じると致命的となることもあり予後が不良です。現在線維化を制御する効果的な治療法はありません。この原因のひとつ

として、ヒトの治療への応用の前段階となる動物実験のための線維化モデル動物がないことが挙げられます。私は留学中、線維化のメカニズムの解明とモデル動物の樹立をテーマに研究していました。これらの研究がこれらの障壁を乗り越える一助になればと思っています。留学中はゆっくりと自分自身と向き合う時間が取ることができました。また、全く知る人のない新たな環境で研究を立ち上げることの難しさと、その際に必要なコミュニケーションの大切さを学ぶよい機会となりました。このような貴重な機会を隔り、現在も御指導をいただいております桑名正隆先生にこの場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。



▲University of Pittsburgh

米国リウマチ学会議に参加して

A MERICAN C OLLEGE of R HEUMATOLOGY

San Francisco, CA 24-29, Oct 2008

中澤 隆

倉敷中央病院

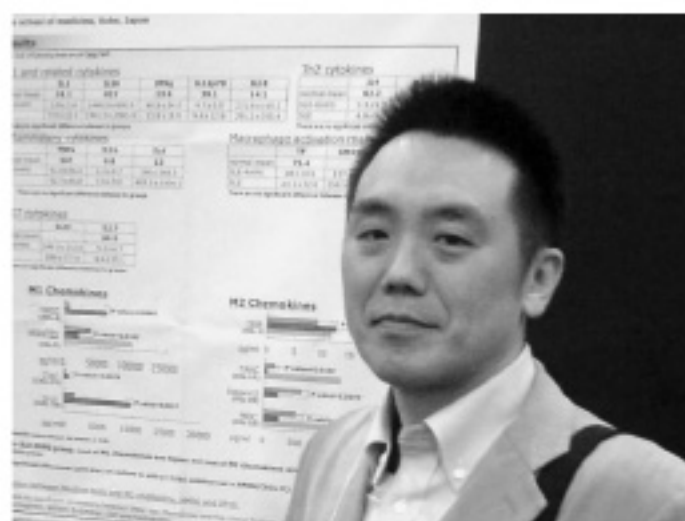
アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコにおいて、ACR2008は開催されました。期間は10月24日から10月30日。Mosconeセンターの北館・南館を使用しての大規模な学会が今年も開かれたのです。

10月26日(日)から参加した私は、倉敷中央病院でリウマチ膠原病内科の医長をしてまだ7ヶ月の身分。自院の診療をレジデントにまかせての一人旅の始まりです。

一昨年のワシントンDCでのACR2006から二回目の参加となりますが、大会場にひしめく大柄の外国人たちがすべてrheumatologistであるその現状にまず圧倒されました。

記憶にあるもっとも実用的だった話として、GCAの臨床の話がありました。10/26初日の現地到着日にはがんばって参加できたと振り返って思います。GCAの浅瀬頭動脈生検をどのようなタイミングで行うのかということです。臨床決断に有用な情報として、1) ステロイド治療開始後でも生検の感度は落ちないということ(1-8Wと)、そして2) 典型的GCAなら画像診断でもうよいが、非典型GCAこそbiopsyを勧めるということです。私の現職の勤務地は高齢者の多い地域で、PMRにはよく遭遇しますが、やはり欧米の報告よりもGCAは少ないようです。しかし、今までの私の考え方は上記のむしろ逆で、典型的なGCAで画像において疑わしいものに生検をして確定診断をしていました。このことを早速生かし、遊走性のGCA様症状を訴える理学所見陰性・US陰性・MRI微妙という症例に生検をしました。結果GCA所見を得、治療に生かすことができたのも、ACR2008に参加した甲斐があったというものです。

主目的はこれではなく、自身のポスター発表です(写真)。前職(神戸大学)で行ったSLE-RHPS患者のマクロファージ活性化を示すためにchemokineを測定して有意差を得たというものです。大盛況だった両サイドの臨床的なSLEについてのポスターに比して、「白・黒・白」のような明確さで閑古



鳥が鳴いていました。興味をもってくれた人はおそらく10人弱で、質問をしてくれた人が4-5人。少しその場を離れてみても様子は同じでした。自分の立ち位置を思い知らされる結果となりましたが、これも経験です。

何を勉強してきたのか、病院を守ってくれていたレジデントにお土産話はあるか。これは結構むずかしいものです。根から鱗のような臨床の話は、ACRと言えどなかなかありません。しかし、臨床家向けのT細胞免疫の会に参加して感じました。内容はT細胞の細胞内シグナル分子のはなしやCD45の話などでした。おそらく多くのreviewに記載されている内容なのだろうと思いつながら、苦手なhearingを視力で補いながらメモを取りました。そしてその夜思ったことは、メモリーT細胞のことです。医師12年目の私は、naive Tからinactiveなmemory Tになっていたところ、目から鱗の新鮮な刺激でなくても活性化されてeffector Tに成り得ると。そして、集まった多くのrheumatologistもeffector memory Tになって、また自院で活発に働くだろうと。今後も、機会を作ってACRに参加したいと感じました。

第13回アジア太平洋 リウマチ会議 (APLAR2008) から 「NEW APLAR」の 構築を目指して

—リウマチ制圧「横浜宣言」採択—

第13回アジア太平洋リウマチ会議(APLAR2008)は、9月23日から27日までパシフィコ横浜でMedical Expo APLAR's Worldというテーマのもとに史上最大の80カ国の国や地域から多くの参加者が集まり、成功裡のうちに終了した。

今回のAPLARは、多くの加盟国が主体的に学会を運営していくという新しい方針が理事会で採択され開催された。APLARは実に多種多様な人種や民族、宗教や価値観の異なる国々や地域から構成されているため、本学会では各国や地域の特性、独自性を発揮する新しい枢軸を試みた。

その一つが、韓国、中国、ASEAN(東南アジア諸国連合)、インドやバングラディッシュ、そしてキルギス、カザフスタンを中心とする中央アジア圏、さらにはイランやシリア、UAEを中心とする汎アラブ領域がそれぞれ独自にユニークなセッションの開催である。一方、ACRやEULARの協力を頂いて教育プログラムの充実を計るとともに、分子標的療法等に関する新たな先端研究からコメディカルのシンポジウムも開催した。

本学会では、APLARの中心を担ってきた東アジアからオーストラリアという南北のラインから、インド、中央アジア、さらにはアラブ各国に及ぶ東西の枢軸を導入し、APLARに新しい流れを作ることができた。

また、今回のAPLAR2008において、IT技術を駆使した電子媒体によって数多くの演題が発表されたことも新しい流れのひとつとして取り上げたい(写真参照)。

一方、文化交流面では多くの方々から支援を頂いた。特に、開会式ではNHK交響楽団と国際的な女性バイオリン奏者であり、高柳広教授のご夫人である川井郁子さんによるオープニングコンサートは数多くの参加者に感銘を与えた。

最終日には、国際リウマチサミット会議が開催され、今後10年間のリウマチ制圧計画を中心とした「横浜



第13回アジア太平洋リウマチ会議(APLAR2008)会長
聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター長

西岡 久寿樹

宣言」がWHO、厚生労働省の担当官の参画のもとに、各リーグの総意として共同宣言が採択された。この意義は実に大きく、特に世界中の人口の2/3が集中するAPLARにおいては、この「横浜宣言」のもとにリウマチ性疾患制圧目標が明確にされた。

APLAR2008は、国内外のリウマチ性疾患に関わる数多くの方々の協力、またWHO、外務省、厚生労働省、文部科学省といった関連省庁、関連企業など数多くの分野からの御支援に心から御礼を申し上げます。

次回のAPLAR2010は香港で、さらにAPLAR2012はアラブ圏で初めてとなるシリアのダマスカスでの開催が決定された事も特筆に値する。

APLAR2008は今後のAPLAR's Worldに新しいイノベーションをもたらしたものと確信しているが、JCRの方々にもより一層のAPLARへ参画して頂き、中国やインドなどの若手研究者の凄まじいエネルギーを肌で感じて頂きたい。



**President**

Prof Ho-Youn Kim
Korea

President Elect

Prof Rohini Handa
India

Vice Presidents

Prof Kazuhiko Yamamoto
Japan

Dr Zhan-Guo Li
China

Secretary General

Dr Swan-Sim Yeap
Malaysia

Deputy Secretary General

Dr T H Chan
Hong Kong

Treasurer

Prof Kevin Pile
Australia

Immediate Past President

Prof C S Lau
United Kingdom

ASIA PACIFIC LEAGUE OF ASSOCIATIONS FOR RHEUMATOLOGY

Dr Swan-Sim Yeap
Secretary General

21st October 2008

TO: All Presidents of APLAR member countries, (by email and registered mail)

APLAR FELLOWSHIP 2009

This Asia Pacific League of Associations for Rheumatology (APLAR) invites applications from science and medical graduates from APLAR member societies of developing countries for its APLAR FELLOWSHIP. The grant of US\$10,000 is to assist graduates to undertake intensive or advanced study in the research or clinical aspects of either adult or paediatric rheumatology in a rheumatic disease unit in any country within (preferable) or outside the Asia Pacific area for a minimum period of six months. The successful candidate must have a long-term commitment to continue research or clinical work in his / her own country at the conclusion of the Fellowship. The grant is to cover air fares, accommodation and subsistence costs. Up to three APLAR Fellowship grants are available for the year 2009.

The offer is valid only for:

1. Medical or science graduate of less than 40 years of age.
2. Nationals of countries in the Asia Pacific area who are members of APLAR.

The following documents need to be enclosed with the application:

1. Photocopy of birth certificate.
2. Recommendation of the Head of Department where the applicant works at present.
3. Recommendation of the Chairman or President of the national rheumatology society.
4. Curriculum vitae including a recent 2 x 2 inch photograph.
5. A written statement that the institute where the applicant wishes to work is able to accommodate him / her and the willingness of an instructor to supervise the programme.
6. A general outline of the clinical or laboratory course or research work the applicant wishes to undertake.
7. A certificate of fluency in the host country's language.
8. A certificate of ability to write the country's language at tertiary level.
9. A reference of good standing from the Dean of the candidate's medical school / university.

All successful fellows are required to submit a full report to the APLAR Executive Committee upon the completion of the Fellowship. Additionally, they are required to submit data from the work carried out during the Fellowship for presentation at a subsequent APLAR Congress of Rheumatology, and for publication as a full scientific article in the International Journal of Rheumatic Diseases.

Five copies of the application and other documents need to be received before **March 31 2009**, by the Secretary General of APLAR (documents sent by facsimile, or incomplete applications will **NOT** be accepted).

Dr Swan Sim Yeap
Secretary General APLAR
Subang Jaya Medical Centre
No. 1, Jalan SS 12/1A
47500 Subang Jaya
Selangor, MALAYSIA
Email: swanyeap@gmail.com

Mailing Address

Subang Jaya Medical Centre, No. 1, Jalan SS 12/1A,
47500 Subang Jaya, Selangor, MALAYSIA

Tel: +603 5639 1392 Fax: +603 5639 1319 Email: swanyeap@gmail.com Web: www.aplar.org

各支部だより

(中)日本リウマチ学会中部支部

1. 中部支部活動状況

現在（平成20年8月）中部リウマチ学会の会員数は622名（理事14名、評議員118名）です。昨年より16名の増となり、今後ますます会の発展が期待されます。ただし日本リウマチ学会（JCR）中部支部に属する一般会員は1,503名であるため、この乖離の早期是正が昨年に引き続き急務になっています。

さて、JCR中部支部の活動の目標は、多くの会員を募り、リウマチ専門医を育成し、リウマチ治療の組織化を進め、地域格差を解消することで、リウマチ患者さんのすべてに平等で最高の医療をとどけることが責務とされます。

リウマチ専門医を育成する一環事業として、2008年新規に認定された教育施設は、福井赤十字病院、国立病院機構あわら病院、岐阜県立多治見病院、藤枝平成記念病院、あいち小児保健医療総合センターの5施設です。すでに認定された85施設とともに、地域でのリウマチ医療の発展や研修医育成に期待がかかります。

2. 第20回中部リウマチ学会

（中部支部学術集会）報告

平成20年9月6日（土）に、浜松市アクトシティ浜松コンgresセンターにて、浜松医科大学整形外科教授 長野昭会長によって開催されました。

関節リウマチの治療は生物学的製剤の導入により格段と向上していますが、それに伴い種々の副作用が生じているため、シンポジウムは「RAの肺合併症の診断と治療」が取り上げられました。特別講演では東京大学大学院整形外科学の田中榮准教

授に「関節リウマチにおける骨関節破壊メカニズム」の講演をいただきました。さらに教育講演として浜松医科大学免疫・リウマチ内科の小川法良講師に「関節リウマチと鑑別困難な疾患」が取り上げられました。この2題は中部支部地域教育研修会をかねました。その他、主題として「生物学的製剤使用中に鑑別したRA症例」6題と「RAの上肢手術」5題、一般演題では、治療25題、膠原病18題、検査・評価7題、RAの合併症9題、診療・病診連携4題など総計82題の発表が行われ、活発な討論がなされました。

3. 第21回中部リウマチ学会ご案内

平成21年9月5日（土）、金沢市ホテル金沢にて、金沢医科大学血液免疫制御学教授 梅原久範会長のもとで開催予定です。多くの会員の参加をお願いいたします。

（文責：中部支部代表 村澤 章）



(中) 日本リウマチ学会関東支部

関東支部は2008年9月現在、会員数2933名、施設数127であり、その内訳は、内科医1372名、整形外科医1165名、小児科医81名、その他の専門315名である。日本リウマチ学会の中で最も会員数の多い支部である。リウマチが専門の内科医と整形外科医が主な構成メンバーで、相互の交流も活発に行われている。

関東では、日本リウマチ学会の関東支部としての活動が正式に開始される以前から、関東リウマチ研究会という研究会組織（現代表世話人、高崎芳成順天堂大学教授）が活動しており、症例検討が活発に行われていた。日本リウマチ学会の支部集會が行われるようになってから調整が行われ、6月末頃に関東リウマチ研究会が土曜日の午後開かれ、11月から12月頃に関東支部学術集會がおよそ1日かけて開かれるようになって現在に至っている。

本年は群馬大学大学院医学系研究科内科学の野島美久教授が会長で、第19回支部集會が12月6日に高崎で開催された。昨年は齋藤知行教授（横浜市大）のもと横浜、一昨年は山田昭夫教授（東京慈恵医大）のもと東京で開催されており、関東の各地での開催が好評である。

上述のような歴史的経緯から、関東リウマチ研究会への参加者は多く、症例呈示と活発な議論が行われていた。一方、学会の関東支部学術集會への参加は当初それほど多くない時期が続いていたが、今までの学術集會会長、支部長、運営委員の努力、さらに最近の新しい治療薬の導入などを受け

臨床リウマチ学の重要性と関心が益々増している関係もあり、最近では多くの会員が参加し活発な討議が行われる支部学術集會へと発展している。

関東圏は、グループや私的な研究会に加え、製薬会社の主催する研究会などが比較的多く開催される関係もあり、上記の集會以外には、現在のところ支部としての大きな活動はない。

（文責：関東支部代表 山本一彦）

※お知らせ 12月6日に日本リウマチ学会関東支部運営委員の改選が行われ、次の新運営委員が選出された。

東京—高崎芳成、桃原茂樹、山中寿
 神奈川—加藤智啓、廣畑俊成
 千葉—関川巖 埼玉—織田弘美
 茨城—住田孝之 栃木—笹田清次
 群馬—高岸憲二



各委員会・理事会報告

JCR評議員各位

第4期理事候補選挙実施について

平成21年1月5日(月)の公示に伴い立候補者一覧名簿及び投票用紙をJCR評議員に発送いたします。

選挙は同2月5日(木)を投票締切日として実施いたしますので、日程にご注意ください。

今回の選挙よりマークシート式の投票用紙へ変更になります。なお細部は1月5日の選挙(公示)でお示しいたします。

JCR選挙管理委員会

理事会・委員会開催一覧 (2008年9月～2008年12月)

9月19日	第20回ニュースレター小委員会
10月2日	第2回情報化委員会
10月3日	第153回MR編集委員会
11月19日	第4回国際委員会
11月24日	第4回理事会 第3回専門医制度委員会 第20回PMS小委員会

2008年度第3回理事会報告

(中)日本リウマチ学会 理事長 小池隆夫

2008年度第3回(中)日本リウマチ学会理事会を9月5日(金)に開催し、次の事項が承認・審議・報告された。

1. 承認事項

- 2008年度第2回理事会議事録について、異議なく承認された。
- 第53回学会・井上和彦会長より学術集会準備状況及び確認事項について報告及び説明され承認された。
 - 会期日程は、2009年4月23日(木)から同月26日(日)で、プログラムについては竹内勲プログラム委員長の下に2回委員会を開き意見を取り入れながら編成した。
 - 学術集会の収支予算については展示収入の増加、国際シンポの削減等を加味して、1億9800万円規模となった。
 - 井上会長より、日本語の抄録集作成を廃止して、CD-ROMによる抄録集にしたいとの提案がされたが、これまで50数回に亘る学術集会の歴史の中で続けてきたものをここでCD-ROMに切り替えていいかとの意見もあり、記録集としても捨て難いものがあるという大勢から、和文抄録集は継続して発行することを決めた。
- 橋本博史選挙管理委員長より第4期理事候補者選挙実施要綱(選挙日程、立候補の届出の書類、選挙公示、投票用紙の書式変更など)について説明され、全般内容に同意、確認した。
- 横野博史教育施設認定委員会副委員長より2008年度新規・継続教育施設認定の審査内容及び結果が報告され承認された。

2. 審議事項

- 第52回学会・学術集会小池隆夫会長より収支報告が行われた。

収入実績は、当初参加見込み数より400名程度多かったことにより154,443,800円で約600万円弱予算に比べ増えている。支出合計も予算より約400万円超過しているが、収入増を加味すれば、約200万円が差し引き残となる旨が報告された。
- 総務委員会より学会賞および学術集会のあり方について検討している旨報告され、同委員会で纏めた中間報告について審議検討を行った。

3. 報告事項

- 各委員会委員長より委員会活動状況および検討課題についての報告が行われた。
- 事務局職員の「就業規則」の見直しについて、その改正案が社会保険労務士村上剛久氏より説明報告された。

全国中央教育研修会 大阪大会 報告

2008年12月7日(日)
千里ライフサイエンスセンター

JCR2008全国中央教育研修会大阪大会が12月7日(日)に千里ライフサイエンスセンターで開催された。札幌のアンニアルコースレクチャーから東京大会と続き、本年度最後となった大阪大会には西日本を中心に全国から多くの参加者を集め、それぞれの分野のエキスパートによるハイレベルな講演が行われた。なお、2009年度も本年同様学術集会期間中のアンニアルコースレクチャーに続き、東京と大阪でそれぞれ全国中央教育研修会を開催する。大会詳細については学会ニュースレター、ホームページおよびメルマガなどで随時案内していく。

■2009年度開催日程

アンニアルコースレクチャー：2009年4月26日(日)
グランドプリンス新高輪
全国中央教育研修会東京大会：2009年8月23日(日)
・ 大阪大会：2009年12月13日(日)

※プログラムに関しては3ページ参照



JCR支部学術集会

第37回九州・沖縄支部学術集会 (九州リウマチ学会)

開催日 2009年3月14日(土)、15日(日)
会場 長崎大学医学部記念講堂
〒852-8523 長崎市坂本1-12-4
会長 長崎大学医学部整形外科 教授
進藤裕幸
TEL: 095-819-7321
ホームページ <http://www.congre.co.jp/jcr37kyushu/>
連絡先 〒852-8501 長崎市坂本町1丁目7-1
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科整形外科学
TEL: 095-819-7321 FAX: 095-849-7325

第19回近畿支部学術集会

開催日 2009年9月5日(土)
会場 毎日新聞社オーバルホール
〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5
TEL: 06-6346-8357
会長 独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター臨床研究部 部長
佐伯行彦
連絡先 独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター臨床研究部
〒586-8521 大阪府河内長野市木戸東町2番1号
TEL: 0721-53-5761 (代表)

第21回中部支部学術集会

開催日 2009年9月5日(土)
会場 ホテル金沢
〒920-0849 石川県金沢市堀川新町1番1号
TEL: 076-223-1111
会長 金沢医科大学血液免疫制御学 教授
梅原久範
連絡先 金沢医科大学血液免疫制御学
〒920-0293 石川県河北郡内藤町大学1-1
TEL: 076-286-2211(代表)

第20回中国・四国支部学術集会

開催日 2009年11月14日(土)
会場 ビッグハート出雲
〒730-0051 島根県出雲市駅南町1丁目5番地
TEL: 0853-20-2888 FAX: 0853-30-0890
会長 島根大学医学部神経・血液・膠原病内科
村川祥子
連絡先 島根大学医学部神経・血液・膠原病内科
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

第20回関東支部学術集会

開催日 2009年12月6日(日)
会場 パシフィコ横浜
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
TEL: 045-221-2155 (代表)
会長 東邦大学医療センター大森病院膠原病科 教授
川合眞一
連絡先 東邦大学医療センター大森病院
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
TEL: 03-3762-4151 (代表) FAX: 03-3768-3620

第19回北海道・東北支部学術集会

開催日 未定
会場 未定
会長 山形大学医学部整形外科 教授 荻野利彦



生物由来製品 劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品[®]

ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

ヒュミラ[®] 皮下注40mg
シリンジ0.8mL

<皮下注射用アダリムマブ(遺伝子組換え)製剤>

HUMIRA[®]

注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果, 用法・用量, 警告, 禁忌を含む使用上の注意等については
添付文書をご参照ください。

製造販売(輸入)元

アボット ジャパン株式会社

〒108-6303 東京都港区三田 3-5-27

販売元

エーザイ株式会社

〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先: エーザイ株式会社 お客様ホットライン室 ☎0120-419-497 9~18時(土、日、祝日 9~17時)



かわき。

効能追加

シエーグレン症候群患者の
口腔乾燥症状の改善



効能・効果

1. 頸部部の放射線治療に伴う口腔乾燥症状の改善
2. シエーグレン症候群患者の口腔乾燥症状の改善

用法・用量

通常、成人にはピロカルピン塩酸塩として1回5mgを1日3回、食後に経口投与する。

<用法・用量に関連する使用上の注意>

本剤の投与は空腹時を避け、食後30分以内とすること。

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 高度の唾液腺腫脹及び唾液腺の疼痛を有する患者〔症状を悪化させるおそれがある。〕
- (2) 間質性肺炎の患者〔間質性肺炎を増悪する可能性がある。〕
- (3) 肺炎の患者〔唾液の分泌が亢進し、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (4) 過敏性腸疾患の患者〔腸管運動が亢進し、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (5) 消化性潰瘍の患者〔胆汁液の分泌が亢進し、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (6) 胆のう障害又は胆石のある患者〔胆管を収縮させ、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (7) 尿路結石又は腎結石のある患者〔尿管及び尿道を収縮させ、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (8) 前立腺肥大に伴う排尿障害のある患者〔膀胱筋を収縮又は緊張させ、排尿障害を悪化させるおそれがある。〕
- (9) 甲状腺機能亢進症の患者〔心血管系に作用し、不整脈又は心房細動を起こすおそれがある。〕
- (10) 全身性進行性硬化症の患者〔心血管系、消化器系に作用し、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (11) 中等度又は高度の肝機能低下患者〔高い血中濃度が持続し、副作用の発現率が高まるおそれがある。〕
- (12) 迷走神経緊張症のある患者〔迷走神経の緊張を増強させるおそれがある。〕
- (13) 高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕
- (14) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照〕

2. 重要な基本的注意

- (1) 結瞳を起こすおそれがあるので、投与中の患者には夜間の自動車の運転及び暗所での危険を伴う機械の操作に注意させること。
- (2) 本剤投与中、過度に発汗し十分な水分補給が出来ない場合には脱水症状を引き起こす可能性があるため、このような状況が考えられる患者には担当医師に相談すること。
- (3) 一般にコリン作動薬は、用量依存的に中枢神経系に作用する可能性があることから、認識力の障害または精神障害のある患者に使用する場合には注意すること。
- (4) 本剤を12週間投与して効果が認められない場合には、その後の経過を十分に観察し、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

3. 相互作用

本剤の主代謝経路は、血漿中のエステラーゼによる加水分解と、チトクロームP450 2A6(CYP2A6)による酸化である。

併用注意(併用に注意すること)

コリン作動薬(塩化アセチルコリン、塩化ピロカルピン等)、コリンエステラーゼ阻害薬(ネオスチグミン、塩化アンベノニウム等)、アセチルコリン放出促進作用を有する薬剤(シサプリド、モサプリド等)、抗コリン作動薬

口腔乾燥症状改善薬

新薬 指定医薬品

製法基準収載



サラジェン[®]錠5mg

SALAGEN[®] Tab. 5mg

ピロカルピン塩酸塩錠

禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 重篤な虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症等)のある患者〔冠状動脈硬化に伴う狭窄所見を冠状動脈攣縮により増強し、虚血性心疾患の病態を悪化させるおそれがある。〕
- (2) 気管支喘息及び慢性閉塞性肺疾患の患者〔気道抵抗や気管支平滑筋の緊張増大及び気管支粘液分泌亢進のため、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (3) 消化管及び膀胱頸部に閉塞のある患者〔消化管又は膀胱筋を収縮又は緊張させ、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (4) てんかんの患者〔てんかん発作をおこすおそれがある。〕
- (5) パーキンソンニズム又はパーキンソン病の患者〔パーキンソンニズム又はパーキンソン病の症状を悪化させるおそれがある。〕
- (6) 虹彩炎の患者〔縮瞳が症状を悪化させるおそれがある。〕
- (7) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

(硫酸アトロピン、臭化水素酸スコポラミン等)、抗コリン作用を有する薬剤(フェノチアジン系抗精神病薬:クロロプロマジン等、三環系抗うつ薬:塩酸アミトリプチリン、塩酸イミプラミン等)、CYP2A6で主に代謝されて活性化される薬剤(テガフル製剤)、CYP2A6で主に代謝される薬剤(塩酸ファドゾール等)、CYP2A6の阻害剤(メトキサレン等)、潜在的に心毒性を有する抗悪性腫瘍剤(アントラサイクリン系薬剤等)

4. 副作用

<頸部部の放射線治療に伴う口腔乾燥症状の改善>

これまでに実施された臨床試験の総症例665例中、副作用が報告されたのは385例(57.9%)であった。その主なものは、多汗37.0%(246/665)、鼻炎8.1%(54/665)、下痢6.2%(41/665)、頻尿5.4%(36/665)、頭痛4.5%(30/665)、ほてり4.4%(29/665)、嘔気4.4%(29/665)等であった。また、臨床検査値の異常変動は、総症例628例中108例(17.2%)に認められた。その主なものは、トリグリセリド上昇4.2%(23/552)、LDH上昇3.2%(20/616)、AST(GOT)上昇2.4%(15/619)、尿潜血陽性2.5%(13/514)、 γ -GTP上昇2.3%(14/601)、ALT(GPT)上昇2.3%(14/619)等であった。(承認時)

<シエーグレン症候群患者の口腔乾燥症状の改善>

これまでに実施された臨床試験の総症例367例中、副作用が報告されたのは282例(76.8%)であった。その主なものは、多汗40.6%(149/367)、頭痛15.5%(57/367)、嘔気14.2%(52/367)、下痢13.1%(48/367)、悪寒9.3%(34/367)、ほてり7.1%(26/367)、頻尿6.8%(25/367)、嘔吐6.5%(24/367)、めまい6.3%(23/367)、腹痛6.0%(22/367)、鼻炎6.0%(22/367)、咳5.7%(21/367)、高血圧5.2%(19/367)、倦怠感5.2%(19/367)等であった。また、臨床検査値の異常変動は、総症例353例中102例(28.9%)に認められた。その主なものは、トリグリセリド上昇6.9%(24/348)、 γ -GTP上昇5.4%(19/349)、AST(GOT)上昇3.5%(12/347)、LDH上昇3.5%(12/347)、ALT(GPT)上昇3.4%(12/348)、尿潜血陽性3.4%(12/348)、Al-P上昇2.9%(10/347)、赤血球数減少2.6%(9/349)、血色素量減少2.6%(9/349)等であった。(効能追加承認時)

(1) 重大な副作用

- 1) 間質性肺炎(0.1%)
間質性肺炎があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与など適切な処置を行うこと。
- 2) 失神・意識喪失(0.2%)
一過性の意識喪失等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

その他の使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元

キッセイ薬品工業株式会社

松本市芳野1-9番48号

<http://www.kissei.co.jp/>

資料請求先: 製品情報部 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号

TEL.03-3279-2304

提携

MGI PHARMA, INC., USA

SL093ZV

2007年10月作成

新しい肺動脈性肺高血圧症治療薬

for your next step

Careload

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- (1) 出血している患者(血友病、毛細血管脆弱症、上部消化管出血、尿路出血、喀血、眼底出血等) [出血を増大するおそれがある。]
- (2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)

【効能・効果】

肺動脈性肺高血圧症

【効能・効果に関する使用上の注意】

- (1) 原発性肺高血圧症及び膠原病に伴う肺高血圧症以外の肺動脈性肺高血圧症における有効性・安全性は確立していない。
- (2) 肺高血圧症のWHO機能分類クラスIV*の患者における有効性・安全性は確立していない。また、重症度の高い患者等では効果が得られにくい場合がある。病歴動態あるいは臨床症状の改善がみられない場合は、注射剤や他の治療に切り替えるなど適切な処置を行うこと。

*WHO機能分類はNYHA (New York Heart Association) 心機能分類を肺高血圧症に準用したものである。

【用法・用量】

通常、成人には、ベラプロスタナトリウムとして1日120μgを2回に分けて朝夕食後に経口投与することから開始し、症状(副作用)を十分観察しながら漸次増量する。
なお、用量は患者の症状、忍容性などに応じて適宜増減するが、最大1日360μgまでとし、2回に分けて朝夕食後に経口投与する。

【用法・用量に関する使用上の注意】

肺動脈性肺高血圧症は治療法に対する忍容性が患者によって異なることが知られており、本剤の投与にあたっては、投与を少量より開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら行うこと。

【使用上の注意】(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 抗凝剤、抗血小板剤、血栓溶解剤を投与中の患者(「相互作用」の項参照)
- (2) 月経期間中の患者[出血傾向を助長するおそれがある。]
- (3) 出血傾向並びにその素因のある患者[出血傾向を助長するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤の有効成分は「トルナー錠20μg」、「プロサイリン錠20」と同一であるが、用法・用量が異なることに注意すること。
- (2) 本剤から「トルナー錠20μg」、「プロサイリン錠20」へ切り替える場合には、本剤最終投与時から12時間以上が経過した後に、「トルナー錠20μg」、「プロサイリン錠20」をベラプロスタナトリウムとして原則1日60μgを3回に分けて食後に経口投与することから開始すること。また、本剤と同用量の「トルナー錠20μg」、「プロサイリン錠20」に切り替えると、過量投与になるおそれがあるため注意すること。(「薬物動態」の項参照)

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

抗凝剤(ワルファリン等)、抗血小板剤(アスピリン、チクロピジン等)、血栓溶解剤(クロキナーゼ等)、プロスタグランジン₁₂製剤(エゴプロスタノール、ベラプロストTM)、エンドセリン受容体拮抗剤(ボセンタン)

注1) 同一有効成分を含有する「トルナー錠20μg」、「プロサイリン錠20」等との併用に注意すること。

4. 副作用

原発性肺高血圧症及び膠原病に伴う肺高血圧症患者を対象とした臨床試験において症例46例中、45例(97.8%)に271件の副作用(臨床検査値異常を含む)が認められ、その主なものは頭痛34例(73.9%)、顔面潮紅31例(67.4%)、はてり26例(56.5%)、嘔気13例(28.3%)、倦怠感13例(28.3%)、下痢10例(21.7%)、動悸8例(17.4%)、腹痛8例(17.4%)等であった。(承認時)

(1) 重大な副作用

- 1) 出血傾向 [脳出血(軽度不明TM)、消化管出血(軽度不明TM)、肺出血(軽度不明TM)、眼底出血(軽度不明TM)]: 観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 2) ショック(軽度不明TM): ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、顔赤、顔蒼白、呼吸等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 3) 間質性肺炎(軽度不明TM): 間質性肺炎があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 4) 肝機能障害(軽度不明TM): 黄血や著しいAST(GOT)、ALT(GPT)の上昇を伴う肝機能障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 5) 狭心症(軽度不明TM): 狭心症があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 6) 心筋梗塞(軽度不明TM): 心筋梗塞があらわれるとの報告があるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 注2) 本剤投与では認められていないが、同一有効成分を含有する「トルナー錠20μg」、「プロサイリン錠20」の投与で認められた副作用。

■その他の使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

■本剤は新医薬品のため、平成20年12月末日までは、1回14日分を限度として投薬してください。

経口プロスタサイクリン(PG₁₂)誘導体徐放性製剤 薬価基準収載
(ベラプロスタナトリウム徐放錠)

ケアロード[®] LA錠60μg

製薬、製造販売元: 東レせん製薬
(注: 同一製剤の処方せんによる使用すること)

Careload[®] LA

発売 アステラス製薬株式会社
東京都板橋区蓮根3-17-1

【資料請求先】 本社/東京都中央区日本橋本町2-3-11

製造販売 **TORAY**

製造販売

東レ株式会社

東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

若手からの意見

柏木 聡

尼崎医療生協病院 整形外科・リウマチ科

市中病院だからこそできる医療

私は1999年に大分医科大学を卒業後、大学の医局には所属せず民間病院に入りました。初年度は一般内科を、それから整形外科を学び始めました。北海道、名古屋、新潟と、研修病院を探しながら、整形外科・膠原病内科・麻酔科の勉強をしてきましたが、北海道で膠原病を学んだ事がきっかけでリウマチ学を専攻する事になりました。リウマチ学は主に新潟県立リウマ

チセンター村澤章先生の下で学び、昨年、現病院に戻ってきました。

ここではリウマチ科の立ち上げから始め、呼吸器合併症などで困った症例は近隣大学病院の先生に相談しながらこの1年半を過ごしてきました。患者5名から始めた外来は徐々に増加し、入院ではRA教育入院・生物学的製剤・LCAP・手術などを行い日々の診療に従事しています。

近年、生物学的製剤の導入でリウマチ治療はめまぐるしく変わってきています。一方で往診患者さんの家に行くことと受診できない寝たきりの患者さんもいらっしゃいます。市中病院にいると、治療学は進歩していますが地域末端までそれらが行き届いていないことを感じます。学会・研修会などでは生物学的製剤が輝きを放っており、あたかもそこに治療が集約される印象を持ちますが、決してそうではないと思います。今一度、治療だけでなく医療の原点に立ち戻り、全人的にリウマチ患者さんを見る医療を実践できればと思っています。

◆写真/左より 稲荷医師、大澤部長、柏木(筆者)、中川医師



福興 俊介

産業医科大学医学部第一内科学講座

リウマチの将来を見据えて

2004年に産業医科大学医学部卒業後、新研修医制度の初年度でしたが、産業医科大学病院で研修を終え、そのまま産業医科大学病院免疫・内分泌代謝内科に所属・勤務しています。今年で医師5年目となり、少しずつですが自分なりの意見も言えるようになりました。私がリウマチ学を志した理由ですが、研

修医時代に田中良哉教授から「おれと一緒にリウマチをやらないうか」と誘われたのがきっかけでした。その後、教育・臨床・研究と多忙な日々を過ごしておりますが、田中教授の「毎日コツコツと頑張っていれば、いつかきっといいことがあるはず」との言葉を胸に日々精進しております。リウマチの世界は今、生物学的製剤の台頭により劇的な変化が起きていますが、そんな大変な時期にリウマチ学に携わることができ大変幸せに思います。まだまだ課題も多く、私どもの仕事も山積みですが、ひとつひとつ課題をこなしていく事が使命だと勝手に思っています。また最近、田中教授の言っていた「なにかいいこと」の意味が少しずつ分かってきたような気がしますし、来年は大学院へと進学し新たな視野が開けると思っていますので、使命を果たすべくまたコツコツと頑張っていきたいと思っています。

◆写真/一列目左より山岡邦宏先生、斉藤和義先生、田中良哉教授、岡田洋右先生、西田啓子先生
三列目右より2人目が筆者、その他は略

スカラーシップ受賞者印象記



スカラーシップ受賞者印象記



Chien-Kai Kau
(Taiwan)

Unforgettable experience of participating in JCR 2008

After leaving Japan and getting back to normal life in Taiwan, it took me quite a while to gradually forget the delightful atmosphere at the 52nd Annual Scientific Meeting and the 17th International Rheumatology Symposium in Japan. It was so well-done not only because of the warm welcome on arriving in Sapporo at midnight, but also the attentive and plentiful arrangement of the schedule.

It was always wonderful to travel to Japan because of her friendly people and splendid culture, not to mention the kindness and hospitality of organizers of JCR 2008. The assistance from the JCR Committee on International Affairs was so in time that being unable to speak Japanese was really nothing to worry. Also "thanks" to the weather that sakura blossomed earlier and I was so lucky to see them everywhere on the way to the arena every morning.

I was very impressed by the intention of the organizers of JCR with providing an opportunity for both exchanging science and meeting leading scholars from all over the globe. And I was deeply honored to be chosen as one of the international scholarship awardees and be able to share my

study, "The Role of Synovial Fluid Levels of Anti-Citrullinated Peptide Antibodies in Seropositive or Seronegative Rheumatoid Arthritis and Other Arthropathies" with JCR members. The questions and comments from the audience were heartily appreciated and made further amendments of my study possible.

Thanks again for your cordial reception and appreciation. This experience of participating in JCR 2008 is truly a highlight in my life. I anticipate another journey to Japan, officially or unofficially, in the near future.

☆☆☆



Chandrasekhara PKS
(India)

It was wonderful participating JCR 2008

It was a great experience to visit Japan and participate in JCR 2008, which were the 52nd Annual General Assembly and Scientific Meeting of Japan College of Rheumatology. By all means it was a very well organized conference. My heart felt congratulations to organizers for the same. The scientific sessions provided the latest pieces of information which were very useful for a postgraduate like me. The International Rheumatology Symposium presented legends in various fields of rheumatology and covered recent advances. I really enjoyed the session by Robert G Lahita.

I sincerely thank JCR for awarding me the JCR 2008 International Scholarship. In the scholarship session I presented a paper titled "Prevalence and associations of sleep disturbances in patients with systemic lupus erythematosus". This session provided me an excellent opportunity to interact with international faculty and have a great discussion over the same. Many questions, which were raised, were very thought provoking and I am sure that this will help me while publishing my paper. Also, in the scholarship session I could interact with seventeen young upcoming investigators in the field of rheumatology.

Finally during this visit, I could relish Japanese cuisine and colorful culture which were fabulous. Looking back, I feel, it was a fantastic and very pleasing experience to visit Sapporo and I am looking forward to participate in future JCR meetings.



**Mary Abigai
(Canada)**

The JCR 2008 Scholarship Experience

It is with fond memories that I write this report on my experience at the 52nd Annual Scientific Meeting and the 17th International Rheumatology Symposium of the Japan College of Rheumatology. First I would like to extend my warmest congratulations to JCR and the meeting organizers for hosting this successful congress. This opportunity has been a highlight for my professional and scientific development, and I have learned much from it. Second, I offer my sincerest gratitude for the warm welcome and hospitality that I was shown throughout my stay in Sapporo. This was my first time visiting Japan and this country and its people have truly captivated me.

The opportunities for hearing from leading scientists during the International Symposium, meeting and exchanging ideas with peers at the Scholarship Sessions, and establishing potential collaborations throughout the congress were indeed highlights for young scientists. I was especially pleased to find that my particular Scholarship Session also featured other researchers involved in population-based and epidemiologic studies in rheumatology. My study, "The Effect of Gout on the

Risk of Myocardial Infarction in Patients 65 Years and Older" drew great discussions and provided me with insights that I have taken as I continue my work on this area.

Aside from the scientific content, the congress was also very rich in its programme of activities for participants, from the brilliant opening ceremony, to the wonderful Japanese cuisine, and to the banquet especially for the scholarship awardees. Overall, my experience in JCR 2008 has truly been a highlight of my year. I recommend young scientists in rheumatologic research to participate and I hope to attend the congress one day again, perhaps next time as a presenter in the International Symposium.

☆☆☆



**Pauline Jea Vargas
(Philippines)**

My JCR 2008 Experience

Being a 2008 JCR scholar was both a surprise and a privilege for me. I was very hesitant of the trip. But with the help of the committee it was hassle free. In fact, a letter to the immigration officer upon my arrival to Japan for smooth entry was even provided by the committee.

Meeting different physicians most of them rheumatologist from all over the world was an unforgettable experience. Even with their vast knowledge and expertise they were very open to new ideas and humbly gave opinions in the management of different rheumatologic conditions. Most of the sessions were in Japanese but to accommodate us foreigners an interpreter was always at help. International sessions were very informative and constructed in a way that difficult subjects were presented simply.

My presentation was on the second day. A luncheon was given for us scholars to get to know each other and exchange ideas. It was a friendly ensemble of young rheumatologists in the midst of the giants in the field.

What I like most of the JCR convention was the warmth and openness of the JCR staff headed by Dr. Kolke. I could not quantify in words the gratitude that I feel having been chosen to be one of the 2008 JCR Scholars. The experience for me was a threshold in becoming a better rheumatologist.

☆☆☆



**Ting Zeng
(China)**

The experience of the participation to JCR 2008

The 52nd Annual General Assembly and Scientific Meeting of Japan College of Rheumatology and the 17th International Rheumatology Symposium were held during April 20-23, 2008 at Sapporo, Japan. It was my biggest honor to be invited to participate the international scholarship session in JCR 2008. My lecture's subject was "Clinical features and prognosis of Adult onset Still's Disease - 61 cases from China".

I was one of three rheumatologists from China in the congress. According this congress I have had an excellent opportunity to make some friends who had presentation in different branches of rheumatology around the world, and to learn their interesting studies.

I was the last speaker on the last day, every research and every presentation in the international scholarship session were very excellent. Everyone had done some interesting study in their own field. My subject was Adult onset Still's Disease; there were also many talks about pathogenesis, clinical features and biotherapy of RA, SLE, AS.

Also, I was attracted by the beautiful nature sight and hospitable people in Sapporo. During my stay in Sapporo, beautiful Oriental Cherry could be seen on both side of the street. The smiling faces of the friendly staff and Sapporo people would be in my heart forever.

Finally, I really enjoyed the four days in Sapporo, and needless to say my great thanks to congress organizer. Looking forward for my next trip to Japan.

Best regards

日本リウマチ学会入会申込書

(医師、研究者用)

有限責任中間法人

日本リウマチ学会理事長 殿

年 月 日

日本リウマチ学会定款第6条の規定により入会を申し込みます。

(会員管理名簿となりますので、明瞭にお書き下さい。)

※事務局記載欄

○印を付して下さい		※		※	
新規	再入会	受	付	会員番号	
ふりがな				ローマ字	
氏名		㊟		生年月日 (性別)	西暦 年 月 日 (男・女)
E-mail					
勤務先	住所	〒 -			
		Tel - -		Fax - -	
	名称				
	部科名		役職		
所属科名 (○印又は記入)		リウマチ科 (専門=整形外科・内科・ 整形外科・内科・小児科 その他 ())			
自宅		〒 -			
		Tel - -		Fax - -	
卒業大学・専攻				年卒業	
卒業大学院・専攻				年卒業	
連絡先 (雑誌送付先)		<input type="checkbox"/>		勤務先	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>		自宅	
学会英文誌 ("Modern Rheumatology")		<input type="checkbox"/>		要	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>		不要	

上記の者を(中)日本リウマチ学会の会員に推薦します。

推薦者:

(役員又は評議員)

㊟

推薦者:

(役員又は評議員)

㊟

申込書送付先: 〒105-0001

東京都港区虎ノ門1丁目1番24

有限責任中間法人 **日本リウマチ学会**

TEL 03(5251) 5353 FAX 03(5251) 5354

E-mail: gakkaih@ryumachi-jp.com

簡 要: 1. 申込書に年会費1万円を添えて、現金書留でお送り下さい。

2. 1年度は3月1日から翌年2月末日迄です。

3. 退会届のない場合、継続して会員と致します。

ただし、2年以上会費を支払わず、支払いの催促に応じないときは
会員の資格を喪失します。(定款第9条)

㊟住所(勤務先)変更、改姓、退会届はメール(FAX、はがき可)にてご通知下さい。

(中)日本リウマチ学会『教育施設』一覧

(中)日本リウマチ学会専門医制度規則第14条により教育施設として認定されている施設は次の461施設(2008年9月1日現在)です。
なお、教育施設の募集および継続申請のお知らせは次号ニュースレターで掲載いたします。

一連番号	認定番号	施設名	郵便番号/住所	電話番号	認定年度	次回更新
北海道						
1	1	北海道大学病院	060-8648 札幌市北区北14条西5丁目	011-716-1161	1989	2010
2	82	札幌医科大学医学部附属病院	060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291番地	001-611-2111	1990	2011
3	84	勤医協中央病院	007-8505 札幌市東区伏古10条2-15-1	011-782-9111	1990	2011
4	88	市立札幌病院	060-8604 札幌市中央区北11条西13丁目1-1	011-726-2211	1990	2011
5	217	札幌社会保険総合病院	004-8618 札幌市厚別区厚別中央2条6丁目2-1	011-893-3000	1995	2010
6	246	市立釧路総合病院	085-0822 釧路市春湖台1-1-2	0154-41-6121	1998	2010
7	335	旭川医科大学附属病院	078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1	0166-65-2111	2001	2010
8	354	苫小牧市立病院	053-8567 苫小牧市清水町1丁目5-20	0144-33-3131	2002	2011
9	398	KCR札幌医療センター斗南病院	060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目	011-231-2121	2004	2010
10	432	独立行政法人国立病院機構西札幌病院	063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番地	011-611-8111	2005	2011
11	473	帯広厚生病院	080-0016 帯広市西6条南8丁目1番地	0155-24-4161	2006	2009
12	474	総合病院釧路赤十字病院	085-8512 釧路市新栄町21-14	0154-22-7171	2006	2009
13	475	市立函館病院	041-8680 函館市港町1-10-1	0138-43-2000	2006	2009
14	476	時計台記念病院リウマチ膠原病センター	060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2-3	011-251-1221	2006	2009
15	477	北海道整形外科記念病院	062-0937 札幌市豊平区平岸7条13丁目5番22号	011-812-7001	2006	2009
16	552	函館五稜郭病院	040-8611 函館市五稜郭町38-3	0135-51-2295	2008	2011
青森県						
17	115	青森県立中央病院	030-8553 青森市東進道2-1-1	017-726-8111	1991	2009
18	116	弘前大学医学部附属病院	036-8563 弘前市本町53	0172-33-5111	1991	2009
19	306	医療法人整友会 弘前記念病院	036-8076 弘前市境岡字西田59-1	0172-28-1211	2000	2009
20	515	五所川原市立西北中央病院	037-0053 五所川原市字布屋町41番地	0173-35-3111	2007	2010
岩手県						
21	2	岩手医科大学医学部附属病院	020-8505 盛岡市内丸19-1	019-651-5111	1989	2010
22	204	独立行政法人国立病院機構盛岡病院	020-0133 盛岡市青山1-25-1	019-647-2195	1994	2009
23	434	社団法人医療法人昭内病院	020-0807 盛岡市青町2-28	019-623-1316	2005	2011
24	435	社会福祉法人昭内財団済生会北上済生会病院	024-8506 北上市花園町1丁目6番8号	0197-64-7722	2005	2011
25	478	岩手県立花巻厚生病院	025-0082 花巻市御田屋町4-57	0198-23-2346	2006	2009
26	553	岩手県立中央病院	020-0066 盛岡市上田1-4-1	019-653-1151	2008	2011
宮城県						
27	4	東北厚生年金病院	983-8512 仙台市宮城野区福家1-12-1	022-259-1221	1989	2010
28	5	独立行政法人労働者健康福祉機構東北労災病院	981-8563 仙台市青葉区原4-3-21	022-275-1111	1989	2010
29	119	東北大学医学部附属病院	980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1	022-717-7000	1991	2009
30	272	独立行政法人国立病院機構西多賀病院	982-8555 仙台市太白区鉤取本町2丁目11番11号	022-245-2111	1999	2011
31	307	大崎市民病院	989-6183 大崎市古川千手寺町2丁目3-10	0229-23-3311	2000	2009
32	436	石巻赤十字病院	986-8522 石巻市蛇田字西道下71番地	0225-21-7220	2005	2011
33	516	NTT東日本東北病院	984-8560 仙台市若葉区大和町2-29-1	022-236-5701	2007	2010
秋田県						
34	118	由利総合総合病院	015-8511 由利本荘市市川口字家後38	0184-27-1200	1991	2009
35	183	秋田大学医学部附属病院	010-8543 秋田市広面字津沼44-2	018-834-1111	1993	2011
36	273	湖東総合病院	018-1605 南秋田郡八郎潟町川崎字員保37	018-875-2100	1999	2011
37	437	特定医療法人明和会中道総合病院	010-8577 秋田市南通みその町3-15	018-833-1122	2005	2011
山形県						
38	120	山形大学医学部附属病院	990-9585 山形市飯田西2-2-2	023-633-1122	1991	2009
39	440	山形県立中央病院	990-2292 山形市青柳1800	023-685-2626	2005	2011
福島県						
40	6	福島県立医科大学附属病院	960-1295 福島市光が丘1	024-547-1111	1989	2010
41	122	財団法人太田総合病院附置太田西/内病院	963-8558 郡山市西ノ内2-5-20	02425-25-1188	1991	2009
42	153	独立行政法人労働者健康福祉機構福島労災病院	973-8403 いわき市内郷郷町沼尻3	0246-26-1111	1992	2010
43	184	財団法人清浅報恩会寿栄堂総合病院	963-8585 郡山市駅前1-8-16	024-932-6363	1993	2011
44	274	福島第一病院	960-8251 福島市北沢又字成出16番地の2	024-557-5111	1999	2011
45	309	財団法人大原総合病院	960-8611 福島市大町6-11	024-526-0300	2000	2009
46	337	福島赤十字病院	960-8530 福島市入江町11-31	024-534-6101	2001	2010
47	438	済生会川俣病院	960-1406 伊達郡川俣町鶴沢川端2-4	024-566-2323	2005	2011
48	439	医療法人医星会併病院	964-8567 二本松市本町1丁目103	0243-22-2828	2005	2011
49	554	国立病院機構福島病院	962-8507 須賀川市芦田塚13番地	0248-75-2131	2008	2011
50	517	北福島医療センター	960-0502 伊達市稲崎字東23-1	024-551-0551	2007	2010
茨城県						
51	130	筑波大学附属病院	305-8576 つくば市天久保2-1-1	0298-53-3900	1991	2009
52	231	株式会社日立製作所多賀総合病院リウマチ膠原病センター	316-0035 日立市国分町2-1-2	0294-33-0035	1996	2011
53	310	東京医科大学常々浦病院	300-0395 稲敷郡阿見町中央3-20-1	0298-87-1161	2000	2009
54	338	財団法人筑波健仁会筑波学医病院	305-0854 つくば市上横場2573-1	0298-36-1355	2001	2010
55	356	社会福祉法人白十字会白十字総合病院	314-0134 神栖市賀2148	0299-92-3311	2002	2011
56	518	鹿島労災病院	314-0343 神栖市土合本町1丁目9108-2	0479-48-4111	2007	2010
栃木県						
57	27	自治医科大学附属病院	329-0498 下野市薬師寺3311-1	0285-44-2111	1989	2010
58	28	獨協医科大学病院	321-0293 下野市賀都王生町北小林880	0282-86-1111	1989	2010

一法 番号	認定 番号	施設名	郵便番号/住 所	電話番号	認定 年度	次回 更新
群馬県						
59	87	医療法人社団三思会東邦病院	379-2311 みどり市笠懸町阿左美1155	0277-76-6311	1990	2011
60	90	前橋赤十字病院	371-0014 前橋市朝日町3-21-36	027-224-4585	1990	2011
61	129	医療法人井上病院	370-0053 高崎市通町55	0273-22-3660	1991	2009
62	185	群馬大学医学部附属病院	371-8511 前橋市昭和町3-39-15	027-220-7111	1993	2011
63	232	財団法人老年病研究所附属病院	371-0847 前橋市大友町3-26-8	027-253-3311	1996	2011
64	247	医療法人社団日高会日高病院	370-0001 高崎市中尾町8 8 6	027-362-6201	1998	2010
65	357	医療法人社団東郷会慈愛堂病院	376-0101 みどり市大間々町大開々504番地6	0277-73-2211	2002	2011
66	384	医療法人相生会わかば病院	371-0843 前橋市新前橋町3-3	027-255-5252	2003	2009
67	482	公立藤岡総合病院	375-8503 藤岡市藤岡942-1	0274-22-3311	2006	2009
68	555	伊勢崎福音病院	372-0048 伊勢崎市大手町18-10	0270-24-3456	2008	2011
埼玉県						
69	30	埼玉医科大学総合医療センター	350-8550 川越市鶴田辻道町1981	049-228-3433	1989	2010
70	31	埼玉医科大学病院	350-0495 入間郡毛呂山町毛呂本郷38	049-276-1111	1989	2010
71	32	防衛医科大学校病院	359-8513 所沢市並木3-2	0429-95-1211	1989	2010
72	85	さいたま赤十字病院	338-8553 さいたま市中央区上落合8-3-33	048-852-1111	1990	2011
73	186	さいたま市立病院	336-8522 さいたま市緑区三幸2460	048-873-4111	1993	2011
74	206	秀和総合病院	344-0035 春日部市谷原新田1200	048-737-2121	1994	2009
75	311	川口工業総合病院	332-0031 川口市青木1-18-15	048-252-4873	2000	2009
76	339	埼玉社会保険病院	330-0074 さいたま市浦和区北浦和4-9-3	048-832-4951	2001	2010
77	358	特定医療法人社団新都市医療研究会[国越]会館越前院	350-2213 鶴ヶ島市樹折145-1	049-285-3161	2002	2011
78	400	埼玉産科総合リハビリテーションセンター	362-8567 上尾市西貝塚148-1	048-781-2222	2004	2010
79	401	自治医科大学附属さいたま医療センター	330-8503 さいたま市大宮区天沼町1-847	048-647-2111	2004	2010
80	483	学校法人北里研究所北里大学北里研究所メディカルセンター病院	364-8501 北本市荒井6丁目100番地	048-593-1212	2006	2009
81	484	埼玉産科小児医療センター	339-8551 さいたま市岩槻区馬込2100	048-758-1811	2006	2009
82	519	医療法人若葉会若葉病院	350-0208 坂戸市戸宮609番地	049-283-3633	2007	2010
千葉県						
83	29	千葉大学医学部附属病院	280-8677 千葉市中央区友舟1-8-1	043-222-7171	1989	2010
84	75	千葉県千葉リハビリテーションセンター	286-0005 千葉市緑区誉田町1-45-2	043-291-1831	1990	2011
85	249	独立行政法人国立病院機構下志津病院	284-0003 四街道市面渡9 3 4 - 5	043-422-2511	1998	2010
86	297	東邦大学医学部附属佐倉病院	285-0841 佐倉市下志津564-1	043-462-8811	1997	2009
87	313	松戸市立病院	271-8511 松戸市上本郷4005	047-363-2171	2000	2009
88	385	千葉県済生会習志野病院	275-0006 習志野市泉町1-1-1	047-473-1281	2003	2009
89	406	独立行政法人国立病院機構千葉東病院	280-8712 千葉市中央区仁戸名町673番地	043-261-5171	2004	2010
90	441	医療法人鉄集会亀田総合病院	296-8602 鴨川市東町929番地	04-7092-2211	2005	2011
91	442	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	279-0021 浦安市富洲2-1-1	047-353-3111	2005	2011
92	443	総合病院国保旭中央病院	289-2511 旭市イ1326	0479-63-8111	2005	2011
93	485	成田赤十字病院	286-8523 成田市飯田町90-1	0476-22-2311	2006	2009
94	520	社会保険船橋中央病院	273-8556 船橋市海神6-13-10	047-433-2111	2007	2010
東京都						
95	7	医療法人社団慈恵会上板橋病院	174-0071 板橋区常盤台4-36-9	03-3933-7191	1989	2010
96	8	慶応義塾大学病院	160-8582 新宿区信濃町35	03-3353-1211	1989	2010
97	9	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	152-8902 目黒区東が丘2-5-1	03-3411-0111	1989	2010
98	10	独立行政法人国立病院機構村山医療センター	208-0011 武蔵村山市学園2-37-1	042-561-1221	1989	2010
99	11	昭和大学病院	142-8666 品川区旗の台1-5-8	03-3784-8000	1989	2010
100	12	順天堂大学医学部附属順天堂医院	113-8431 文京区本郷3-1-3	03-3813-3111	1989	2010
101	13	帝京大学医学部附属病院	173-8605 板橋区加賀2-11-1	03-3964-1211	1989	2010
102	14	東京医科歯科大学医学部附属病院	113-8519 文京区湯島1-5-45	03-3813-6111	1989	2010
103	15	東京医科大学病院	160-0023 新宿区西新宿6-7-1	03-3342-6111	1989	2010
104	16	東京女子医科大学東区療養センター	116-8567 荒川区西尾久2-1-10	03-3810-1111	1989	2010
105	17	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	162-0054 新宿区河田町10-22	03-5269-1711	1989	2010
106	18	東京大学医学部附属病院	113-8655 文京区本郷7-3-1	03-3815-5411	1989	2010
107	19	東京通信病院	102-8798 千代田区富士見2-14-23	03-5214-7111	1989	2010
108	20	東京都立府中病院	183-8524 府中市武蔵台2-9-2	042-323-5111	1989	2010
109	21	東京都老人医療センター	173-0015 板橋区栄町35-2	03-3964-1141	1989	2010
110	22	吉林大学医学部附属病院	181-8611 三鷹市新川16-20-2	0422-47-5511	1989	2010
111	23	都立大塚病院	170-8476 豊島区南大塚2-8-1	03-3941-3211	1989	2010
112	25	日本大学医学部附属板橋病院	173-8610 板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111	1989	2010
113	89	国立成育医療センター	157-8535 世田谷区大蔵2丁目10-1	03-3416-0181	1990	2011
114	92	東京都立墨東病院	130-8575 墨田区江東橋4-23-15	03-3633-6151	1990	2011
115	111	東京慈恵会医科大学附属病院	105-8471 港区西新橋3-19-18	03-3433-1111	1990	2011
116	123	国家公務員共済組合連合会虎の門病院	105-8470 港区虎ノ門2-2-2	03-3588-1111	1991	2009
117	124	財団法人佐々木研究所附属吉雲堂病院	101-0062 千代田区神田駿河台1-8	03-3292-2051	1991	2009
118	125	東京都立駒込病院	113-8677 文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	1991	2009
119	126	済東京総合病院	151-8528 渋谷区代々木2-1-3	03-3320-2200	1991	2009
120	156	日本大学医学部附属馬光が丘病院	179-0072 練馬区光が丘2-11-1	03-3979-3611	1992	2010
121	187	河北総合病院	166-8588 杉並区阿佐ヶ谷北1-7-3	03-3339-2121	1993	2011
122	245	日本医科大学附属病院	113-8602 文京区千駄木1-1-5	03-3822-2131	1997	2009
123	276	東邦大学医療センター大森病院	143-8541 大田区大森西6-1-1-1	03-3762-4151	1999	2011
124	277	東京厚生年金病院	162-8543 新宿区津久戸町5-1-1	03-3269-8111	1999	2011
125	314	公立阿佐賀医療センター	197-0834 あきる野市引田78-1	042-558-0321	2000	2009
126	341	社会福祉法人白十字会東京白十字病院	189-0021 東村山市藤防町2-26-1	042-391-6111	2001	2010
127	355	東邦大学医療センター大橋病院	153-8515 目黒区大橋2-17-6	03-3468-1251	2002	2011
128	386	国立国際医療センター	162-8655 新宿区戸山1-21-1	03-3202-7181	2003	2009

INFORMATION

一連 番号	認定 番号	施設名	郵便番号/住 所	電話番号	認定 年度	次回 更新
129	387	日本赤十字社医療センター	150-8935 渋谷区広尾4-1-22	03-3400-1311	2003	2009
130	403	東京大学医学研究所附属病院	108-8639 港区白金台4-6-1	03-3443-8111	2004	2010
131	404	東京郵リハビリテーション病院	131-0034 墨田区堤通2-14-1	03-3616-8600	2004	2010
132	445	青柳市立総合病院	198-0042 青柳市東青柳4-16-5	0428-22-3191	2005	2011
133	447	順天堂東京江東高令省医療センター	136-0075 江東区新砂3-3-20	03-5632-3111	2005	2011
134	449	町田市市民病院	194-0023 町田市旭町2-15-41	042-722-2230	2005	2011
135	479	医療法人社団順江会江東病院	136-0072 江東区大島6-8-5	03-3685-2166	2006	2009
136	480	自衛隊中央病院	154-0001 世田谷区池尻1-2-24	03-3411-0151	2006	2009
137	481	聖路加国際病院	104-8560 中央区明石町9-1	03-3541-5151	2006	2009
138	521	池上総合病院	146-8531 大田区池上6丁目1番19号	03-3752-3151	2007	2010
139	522	昭島病院	196-0022 昭島市中神町1260番地	042-546-3111	2007	2010
140	523	東京女子医科大学附属青山病院	107-0061 港区青山12-7-13	03-5411-8111	2007	2010
141	524	一橋病院	187-0045 小平市学園西町1-2-25	042-343-1311	2007	2010
142	525	社会福祉法人三井記念病院	101-8643 千代田区神田和泉町1番地	03-3862-9111	2007	2010
143	556	順天堂大学医学部附属練馬病院	177-8521 練馬区高野台3-1-10	03-5923-3111	2008	2011
144	557	立川相互病院	190-8578 立川市錦町1-16-15	042-525-2898	2008	2011
145	558	東京警察病院	164-0001 中野区中野4-22-1	03-5343-5611	2008	2011
神奈川県						
146	33	厚木市立病院	243-8588 厚木市水引1-16-36	046-221-1570	1989	2010
147	34	川崎市立川崎病院	210-0013 川崎市川崎区新川通12-1	044-233-5521	1989	2010
148	35	北里大学病院	228-8555 相模原市北里1-15-1	0427-78-8111	1989	2010
149	36	北里大学東病院	228-8520 相模原市麻溝台2-1-1	0427-48-9111	1989	2010
150	37	独立行政法人国立病院機構相模原病院	228-8522 相模原市桜台18-1	0427-42-8311	1989	2010
151	39	聖マリアンナ医科大学病院	216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	1989	2010
152	41	東海大学医学部付属病院	259-1193 伊勢原市下橋屋143	0463-93-1121	1989	2010
153	42	横浜国立大学附属病院	236-0004 横浜市区旗本3-9	045-787-2900	1989	2010
154	94	昭和大学藤が丘病院	227-8501 横浜市青葉区藤が丘1-30	045-971-1151	1990	2011
155	95	湯河原厚生年金病院	259-0396 足柄下郡湯河原町宮上438	0465-63-2211	1990	2011
156	157	藤沢市民病院	251-8550 藤沢市藤沢2-6-1	0466-25-3111	1992	2010
157	158	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター	232-0024 横浜南区浦舟町4-57	045-261-5656	1992	2010
158	159	帝京大学医学部附属厚溝口病院	213-8507 川崎市高津区溝口3-8-3	044-844-3333	1992	2010
159	189	湘南鎌倉総合病院	247-8533 鎌倉市山崎1202-1	0467-46-1717	1993	2011
160	221	川崎市立井田病院	211-0035 川崎市中原区井田2-27-1	044-766-2188	1995	2010
161	252	横浜市立市民病院	240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町5-6	045-331-1961	1998	2010
162	298	海老名総合病院	243-0433 海老名市河原口1320	046-233-1311	1997	2009
163	315	医療法人(社団)新都市医療研究会「若津」会南大和病院	242-0015 大和市下和田1331-2	046-269-2411	2000	2009
164	316	国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院	236-0037 横浜市区旗本六浦東1-21-1	045-782-2101	2000	2009
165	342	横浜船員病院	240-8585 横浜市鶴見区下末吉3-6-1	045-331-1251	2001	2010
166	360	国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院	247-8581 横浜市区栄区榎町132番地	045-891-2171	2002	2011
167	363	社会福祉法人聖テレジア会総合病院聖ヨゼフ病院	238-8502 横浜市中区緑が丘28	046-822-2134	2002	2011
168	364	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	241-0811 横浜市区旭区矢指町1197-1	045-366-1111	2002	2011
169	388	済生会横浜市東部病院	221-8601 横浜市中区山下3-6-1	045-356-3000	2003	2009
170	389	三浦市立病院	238-0222 三浦市峰崎町4-33	0468-82-2111	2003	2009
171	408	横浜賀市立うわまち病院	238-8567 横浜賀市上町2-36	046-823-2630	2004	2010
172	450	横浜市立みなと赤十字病院	231-8682 横浜市中区新山下3-12-1	045-628-6100	2005	2011
173	486	神奈川厚生連相模原協同病院	229-1188 相模原市橋本2-8-18	042-772-4291	2006	2009
174	487	独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院	222-0036 横浜市中区小机町3211	045-474-8111	2006	2009
175	559	国立病院機構横浜医療センター	245-8575 横浜市区磯子区原宿3-60-2	045-851-2621	2008	2011
176	560	平塚共済病院	254-8502 平塚市道分9-11	0463-32-1950	2008	2011
177	561	大和市立病院	242-0018 大和市深見西8丁目3番6号	046-280-0111	2008	2011
山梨県						
178	43	山梨大学医学部附属病院	409-3898 中央市下河東1110	055-273-1111	1989	2010
179	455	山梨県立中央病院	400-8506 甲府市富士見1-1-1	055-253-7111	2005	2011
180	456	市立甲府病院	400-0832 甲府市増井町366番地	055-244-1111	2005	2011
長野県						
181	97	長野県厚生農業協同組合連合会篠ノ井病院	388-8004 長野市篠ノ井会666-1	026-292-2261	1990	2011
182	160	長野県厚生農業協同組合連合会長野松代総合病院	381-1231 長野市松代町松代183	026-278-2031	1992	2010
183	161	小諸厚生総合病院	384-8588 小諸市与良町3-2-31	0267-22-1070	1992	2010
184	299	長野赤十字病院	380-8582 長野市若菜5-22-1	026-226-4131	1997	2009
185	318	飯田市立病院	395-8502 飯田市八幡町438	0265-21-1255	2000	2009
186	343	信州大学医学部附属病院	390-8621 松本市旭3丁目1番1号	0263-35-4600	2001	2010
187	410	池生会丸の内病院リウマチセンター	390-8601 松本市清1丁目7番45号	0263-28-3003	2004	2010
新潟県						
188	112	新潟県立リウマチセンター	957-0054 新潟市本町1丁目2-8	0254-23-7751	1990	2011
189	113	新潟大学医学部総合病院	951-8520 新潟市中央区旭町通一番町754番地	025-223-6161	1990	2011
190	133	新潟県立中央病院	943-0192 上越市新南町205	0255-22-7711	1991	2009
191	365	長岡赤十字病院	940-2085 長岡市千秋2丁目297番地1	0258-28-3600	2002	2011
富山県						
192	166	富山赤十字病院	930-0859 富山市牛島町2-1-58	076-433-2222	1992	2010
193	194	富山大学附属病院	930-0194 富山市杉谷2630	076-434-2281	1993	2011
194	390	富山県済生会高岡病院	933-8525 高岡市二塚387-1	0766-21-0570	2003	2009
195	451	富山県立中央病院	930-8550 富山市西長江2-2-78	076-424-1531	2005	2011
196	526	高岡市民病院	933-8550 高岡市室町4番1号	0766-23-0204	2007	2010
197	527	八尾総合病院	939-2376 富山市八尾町福島7-42	076-454-5000	2007	2010

一連 番号	認定 番号	施設名	郵便番号/住 所	電話番号	認定 年度	次回 更新
石川県						
198	86	金沢医科大学病院	920-0293 河北郡内灘町大学1-1	076-286-3511	1990	2011
199	301	金沢大学医学部附属病院	920-8641 金沢市宝町13-1	076-265-2000	1997	2009
200	319	石川県済生会金沢病院	920-0353 金沢市赤土町二13-6	076-266-1060	2000	2009
201	528	石川勤労者医療協会城北病院	920-0848 金沢市京町20-3	076-251-6111	2007	2010
202	529	石川県立中央病院	920-8530 金沢市鞍月東2-1	076-237-8211	2007	2010
福井県						
203	52	福井大学医学部附属病院	910-1193 吉田郡松岡町下合月23-3	0776-61-3111	1989	2010
204	110	福井総合病院	910-8561 福井市新田塚1-42-1	0776-21-1300	1990	2011
205	412	福井県済生会病院	918-8503 福井市和田中町舟橋7-1	0776-23-1111	2004	2010
206	488	独立行政法人国立病院機構福井病院	914-0195 敦賀市榎ヶ丘町33-1	0770-25-1600	2006	2009
207	562	福井赤十字病院	918-8501 福井市月見2丁目4-1	0776-36-3630	2008	2011
208	563	独立行政法人国立病院機構あわら病院	910-4272 あわら市北湾238-1	0776-79-1211	2008	2011
岐阜県						
209	50	朝日大学歯学部附属村上記念病院	500-8523 岐阜市橋本町3-23	058-253-8001	1989	2010
210	193	岐阜大学医学部附属病院	501-1194 岐阜市柳戸1番1	058-230-6000	1993	2011
211	392	医療法人社団豊豊会近石病院	502-0901 岐阜市光町2-46	058-232-2111	2003	2009
212	413	社会医療法人かみなめ会山内ホスピタル	500-8381 岐阜市橋本3-7-22	058-276-2131	2004	2010
213	452	西美濃厚生病院	503-1394 美濃郡養老町押越986	0584-32-1161	2005	2011
214	494	岐阜県立下呂温泉病院	509-2292 下呂市幸田1162	0576-25-2820	2006	2009
215	564	岐阜県立多治見病院	570-8522 多治見市前畑町5-161	0572-22-5311	2008	2011
静岡県						
216	44	市立伊東市民病院	414-0054 伊東市鎌田222	0557-37-2826	1989	2010
217	45	中伊豆温泉病院	410-2502 伊豆市上白岩1000番地	0558-83-3333	1989	2010
218	96	順天堂大学医学部附属静岡病院	410-2295 伊豆の国市長岡1129	055-948-3111	1990	2011
219	134	浜松医科大学医学部附属風病院	431-3192 浜松市半田山1-20-1	053-435-2111	1991	2009
220	190	磐田市立総合病院	438-8550 磐田市大久保512-3	0538-38-5000	1993	2011
221	192	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷浜松病院	430-8558 浜松市住吉2-12-12	053-474-2222	1993	2011
222	222	総合病院静岡厚生病院	420-8623 静岡市北番町23	054-271-7177	1995	2010
223	279	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷三方原病院	433-8558 浜松市北区三方原町3 4 5 3	053-436-1251	1999	2011
224	320	藤枝市立総合病院	426-8677 藤枝市蔵河台4-1-11	054-648-1111	2000	2009
225	367	静岡リウマチ整形外科リハビリ病院	420-0821 静岡市楠木90-1	054-267-1000	2002	2011
226	393	医療法人社団駿平会コミュニティーホスピタル甲賀病院	425-0088 焼津市大覚寺655	054-628-5500	2003	2009
227	414	県西部浜松医療センター	432-8580 浜松市富塚町328	053-453-7111	2004	2010
228	415	静岡県立総合病院	420-8527 静岡市北安東4-27-1	054-247-6111	2004	2010
229	489	国際医療福祉大学附属熱海病院	413-0012 熱海市東海岸町13-1	0557-81-9171	2006	2009
230	490	静岡徳州会病院	421-0193 静岡市駿河区下川原南11-1	054-256-8008	2006	2009
231	491	市立御前崎総合病院	437-1696 御前崎市池新田2060	0537-86-8511	2006	2009
232	492	袋井市立袋井市民病院	437-0061 袋井市久能2515-1	0538-43-2511	2006	2009
233	493	沼津市立病院	410-0302 沼津市東柵路字春ノ550	055-924-5100	2006	2009
234	565	藤枝平成記念病院	426-8662 藤枝市水上123-1	054-643-1230	2008	2011
愛知県						
235	46	愛知医科大学病院	480-1195 愛知郡長久手町大字岩作字羅又21	0561-62-3311	1989	2010
236	47	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	460-0001 名古屋市中区三の丸4-1-1	052-951-1111	1989	2010
237	48	名古屋市立大学病院	467-8602 名古屋市瑞穂区穂穂町川澄1	052-851-5511	1989	2010
238	49	藤田保健衛生大学病院	470-1192 豊明市香染町田幸ヶ窪1-98	0562-93-2111	1989	2010
239	103	J A愛知厚生連安城更生病院	446-8602 安城市安城町東広畔2 8番地	0566-75-2111	1990	2011
240	107	小牧市民病院	485-8520 小牧市常盤1-20	0568-76-4131	1990	2011
241	162	トヨタ記念病院	471-8513 豊田市平和町1-1	0565-28-0100	1992	2010
242	163	名古屋大学医学部附属病院	466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65	052-741-2111	1992	2010
243	209	独立行政法人労働者健康福祉機構中部労災病院	455-8530 名古屋市中区港町1-10-6	052-652-5511	1994	2009
244	210	名古屋市立東市民病院	464-8547 名古屋市中千種区若水1-2-23	052-721-7171	1994	2009
245	234	みなと医療生活協同組合協立総合病院	456-8611 名古屋市新田区五番町4-33	052-654-2211	1996	2011
246	253	豊橋市民病院	441-8570 豊橋市青竹町八間西5 0	0532-33-6111	1998	2010
247	254	医療法人宝美会 総合青山病院	441-0195 宝飯郡小坂井町大字小坂井字門並5 番地 1	0533-78-2561	1998	2010
248	280	医療法人朝陽会成田記念病院	441-8021 豊橋市白河町7 8	0532-31-2167	1999	2011
249	281	豊川市民病院	442-8561 豊川市光明町1-1 9	0533-86-1111	1999	2011
250	282	公立陶生病院	489-8642 瀬戸市西湊分町1 6 0	0561-82-5101	1999	2011
251	344	名古屋共立病院	454-0933 名古屋市中川区法華1丁目172	052-362-5151	2001	2010
252	369	名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院	467-8622 名古屋市瑞穂区弥富字密柑山1-2	052-835-3811	2002	2011
253	416	医療法人豊田会刈谷豊田総合病院	448-8505 刈谷市住吉町5-15	0566-21-2450	2004	2010
254	417	名古屋市立東部医療センター守山市民病院	463-8567 名古屋市守山区守山2丁目18-22	052-791-2121	2004	2010
255	418	半田市立半田病院	475-8599 半田市東洋町2-29	0569-22-9881	2004	2010
256	453	J A愛知厚生連豊田厚生病院	470-0396 豊田市浄水町伊保原500-1	0565-43-5000	2005	2011
257	495	厚生連海濱病院	498-8502 弥富市前ヶ須町南本506	0567-65-2511	2006	2009
258	496	社会保険中京病院	457-8510 名古屋市中区三條1-1-10	052-691-7151	2006	2009
259	530	北斗病院	444-2148 岡崎市仁木町字川越17-33	0564-66-2811	2007	2010
260	566	あいち小児保健医療総合センター	474-8710 大府市森岡町尾坂田1-2	0562-43-0500	2008	2011
三重県						
261	83	鈴鹿中央総合病院	513-8630 鈴鹿市安塚町字山之花1275-53	059-382-1311	1990	2011
262	135	山田赤十字病院	516-0805 伊勢市御園町高向810	0595-28-2171	1991	2009
263	419	独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター	514-1101 久居市明神町2158-5	059-259-1211	2004	2010
264	497	藤田保健衛生大学七葉サナトリウム	514-1295 津市大島町424-1	059-252-1555	2006	2009

INFORMATION

一連 番号	認定 番号	施設名	郵便番号/住 所	電話番号	認定 年度	次回 更新
滋賀県						
265	60	国立大学法人滋賀医科大学医学部附属病院	520-2192 大津市瀬田月輪町	077-548-2111	1989	2010
京都府						
266	53	京都大学医学部附属病院	606-8507 京都市左京区聖護院川原町54	075-751-3111	1989	2010
267	54	京都府立医科大学附属病院	602-8566 京都市上京区河原町広小路上ル梶井町465	075-251-5111	1989	2010
268	104	京都第二赤十字病院	602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春香町355-5	075-231-5171	1990	2011
269	421	大原記念病院	601-1246 京都市左京区大原井出町164	075-744-3121	2004	2010
270	422	京都第一赤十字病院	605-0981 京都市東山区本町15丁目749番地	075-561-1121	2004	2010
271	457	医療法人順和会京都下鴨病院	606-0866 京都市左京区下鴨東森ヶ前町17	075-781-1158	2005	2011
272	498	財団法人丹後中央病院	627-8555 京丹後市峰山町杉谷158-1	0772-62-0791	2006	2009
273	499	独立行政法人国立病院機構宇多野病院	616-8255 京都市右京区境塚菅戸山町8	075-461-5121	2006	2009
274	531	医療法人岡本病院(財団)第二岡本総合病院	611-0025 李治市神明石塚54-14	0774-44-4511	2007	2010
275	532	小澤病院	607-8411 京都市山科区御陵大津畑町43-1	075-581-6151	2007	2010
276	533	医療法人洛和会 洛和会音羽病院	607-8062 京都市山科区音羽珍事町2番地	075-593-4111	2007	2010
277	534	京都市立病院	604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2	075-311-5311	2007	2010
278	567	公立南丹病院	629-0197 南丹市八木町八木上野25番地	0771-42-2510	2008	2011
279	568	京都任病院	615-8256 京都市西京区山田平尾町17	075-391-5811	2008	2011
大阪府						
280	56	独立行政法人労働者健康福祉機構大阪労災病院	591-8025 堺市北区長曾根町1179-3	072-252-3561	1996	2011
281	57	関西医科大学附属滝井病院	570-8507 守口市文園町10-15	06-6992-1001	1989	2010
282	58	近畿大学医学部附属病院	589-8511 大阪狭山市大野東377-2	072-366-0221	1989	2010
283	59	独立行政法人国立病院機構大阪南区薬センター	586-8521 河内長野市木戸東町2-1	0721-53-5761	1989	2010
284	102	医療法人行岡医学研究会行岡病院	530-0021 大阪市北区浮田2-2-3	06-6371-9921	1990	2011
285	105	大阪大学医学部附属病院	565-0871 吹田市山田丘2-15	06-6879-5111	1990	2011
286	137	関西電力病院	553-0003 大阪市福島区福島2-1-7	06-6458-5821	1991	2009
287	138	N T T 西日本大阪病院	543-8922 大阪市天王寺区烏ヶ辻2-6-40	06-6773-7111	1991	2009
288	139	大阪市立大学医学部附属病院	545-8586 大阪市阿倍野区旭町1-5-7	06-6645-2121	1991	2009
289	140	大阪医科大学附属病院	569-8686 高槻市大学町2-7	072-683-1221	1991	2009
290	167	淀川キリスト教病院	533-0032 大阪市東淀川区淡路2-9-26	06-6322-2250	1992	2010
291	211	星ヶ丘厚生年金病院	573-8511 枚方市星丘4-8-1	072-840-2641	1994	2011
292	236	医療法人早石会早石病院	543-0027 大阪市天王寺区筆ヶ崎町2-12	06-6771-1227	1996	2011
293	237	大阪赤十字病院	543-8555 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30	06-6774-5111	1996	2011
294	256	大阪府立急性期総合医療センター	558-8558 大阪市住吉区万代東3-1-56	06-6692-1201	1998	2010
295	258	高槻赤十字病院	569-1096 高槻市阿武野1-1-1	072-696-0571	1998	2010
296	284	大阪府済生会中津病院	530-0012 大阪市北区芝田二丁目10-39	06-6372-0333	1999	2011
297	285	財団法人田附興風会医学研究所北野病院	530-8480 大阪市北区扇町2-4-20	06-6312-1221	1999	2011
298	288	近畿大学医学部堺病院	590-0132 堺市原山台2丁目7番1号	072-299-1120	1999	2011
299	325	大阪厚生年金病院	553-0003 大阪市福島区福島4-2-78	06-6441-5451	2000	2009
300	326	市立枚方市民病院	573-1013 枚方市楚野本町2丁目14-1	072-847-2821	2000	2009
301	370	特定医療法人きつこう会多根総合病院	550-0024 大阪市西区境川1-2-31	06-6581-1071	2002	2011
302	394	大阪府済生会富田林病院	584-0082 富田林市向陽台1-3-35	0721-29-1121	2003	2009
303	396	財団法人日本生命済生会付属日生病院	550-0012 大阪市西区立売堀5-3-8	06-6543-3581	2003	2009
304	423	医療法人交詢医会大阪リハビリテーション病院	599-0212 阪南市自然田940	0724-73-2000	2004	2010
305	425	特定医療法人三和会永山病院	590-0406 堺市東区大久保東1-1-10	072-453-1122	2004	2010
306	458	医療法人聖仁会千船病院	555-0001 大阪市西淀川区船2-2-45	06-6471-9541	2005	2011
307	459	市立堺病院	590-0084 堺市南安町1-1-1	072-221-1700	2005	2011
308	500	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	583-8588 羽曳野市はびきの3-7-1	072-957-2121	2006	2009
309	501	市立岸和田市民病院	596-8501 岸和田市藤原町1001	0724-45-1000	2006	2009
310	502	医療法人橋会東住吉森本病院	546-0014 大阪市東住吉区森合3-2-66	06-6606-0010	2006	2009
311	503	関西医科大学附属枚方病院	573-1191 枚方市新町1-1-1	072-804-0101	2006	2009
312	535	医療法人温心会堺温心会病院	599-8273 堺市中区深井清水町2140-1	072-278-2461	2007	2010
313	536	医療法人寿楽会大野記念病院	550-0015 大阪市西区南堀江1丁目26-10	06-6531-1815	2007	2010
314	537	財団法人住友病院	530-0005 大阪市北区中之島5-3-20	06-6443-1261	2007	2010
315	538	りんくう総合医療センター市立泉佐野病院	598-8577 泉佐野市りんくう往來北2-23	072-469-3111	2007	2010
316	569	市立豊中病院	560-8565 豊中市泉原町4丁目14-1	06-6843-0101	2008	2011
317	570	八尾徳洲会総合病院	581-0072 八尾市久宝寺3-15-38	072-993-8501	2008	2011
兵庫県						
318	61	神戸大学医学部附属病院	650-0017 神戸市中央区楠町7-5-2	078-382-5111	1989	2010
319	62	財団法人甲南病院加古川病院	675-8545 加古川市神野町西条1545-1	079-438-0621	1989	2010
320	63	兵庫医科大学病院	663-8501 西宮市武庫川町1-1	0798-45-6111	1989	2010
321	238	姫路赤十字病院	670-8607 姫路市下子町1-12-1	079-294-2251	1996	2011
322	259	関西労災病院	660-8511 尼崎市稲葉荘3-1-69	06-6416-1221	1998	2010
323	260	三木市立三木市民病院	673-0402 三木市加位5-8-1	0794-83-5000	1998	2010
324	261	神戸経済会病院	655-0004 神戸市垂水区学が丘1丁目21-1	078-781-7811	1998	2010
325	302	医療法人聖医会佐用中央病院	679-5301 佐用郡佐用町佐用3529-3	079-82-2154	1997	2009
326	327	神戸赤十字病院	651-0073 神戸市中央区臨海通1-3-1	078-231-6006	2000	2009
327	328	財団法人甲南病院 六甲アイランド病院	658-0032 神戸市東灘区向洋町中2丁目11	078-858-1111	2000	2009
328	347	公立学校共済組合近畿中央病院	664-8533 伊丹市車塚3-1	072-781-3712	2001	2010
329	375	松原メイフラワー病院	673-1462 加東市藤田944-25	0796-42-8851	2002	2011
330	420	神戸市立中央市民病院	650-0046 神戸市中央区港島中町4-6	078-302-4321	2004	2010
331	460	神戸百年記念病院	652-0855 神戸市兵庫区御崎町1-9-1	078-681-6111	2005	2011
332	462	医療法人社団松本会松本病院	675-0039 加古川市加古川町粟津232-1	079-424-0333	2005	2011
333	504	宝塚市立病院	665-0827 宝塚市小浜4丁目5番1号	0797-87-1161	2006	2009
334	539	医療法人仁寿会石川病院	671-0221 姫路市別所町別所2丁目150	079-252-5235	2007	2010
335	540	医療法人神和会公文病院	653-0021 神戸市長田区梅ヶ香町1-12-7	078-652-3201	2007	2010

一連 番号	認定 番号	施設名	郵便番号/住 所	電話番号	認定 年度	次回 更新
336	541	兵庫県立塚口病院	661-0012 尼崎市南塚口町6-8-17	06-6429-5321	2007	2010
337	571	医療法人財団神戸海星病院	657-0068 神戸市灘区榎原北町3丁目11-15	078-871-5201	2008	2011
338	572	神戸市立医療センター西市民病院	653-0013 神戸市長田区一番町二丁目四番地	078-576-5251	2008	2011
339	573	兵庫県立総合リハビリテーションセンターリハビリテーション中央病院	651-2181 神戸市西区曙町1070	078-927-2727	2008	2011
香川県						
340	142	奈良県立医科大学附属病院	634-8522 橿原市四条町840	0744-22-3051	1991	2009
341	330	近畿大学医学部奈良病院	630-0293 生駒市乙田町1248-1	0743-77-0880	2000	2009
342	371	医療法人ひのうえ会樋上病院	634-0007 橿原市基本町701	0744-23-1185	2002	2011
343	574	天理よろづ相談所病院	632-8552 天理市三島町200	0743-63-5611	2008	2011
和歌山県						
344	108	和歌山県立医科大学附属病院	641-8510 和歌山市紀三井寺811-1	073-447-2300	1990	2011
345	542	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター	646-8558 田辺市たきない町27-1	0739-26-7050	2007	2010
鳥取県						
346	67	鳥取大学医学部附属病院	683-8504 米子市西町36-1	0859-33-1111	1989	2010
347	262	社団法人鳥取県中部医師会立三朝温泉病院	682-0197 東伯郡三朝町山田690	0858-43-1321	1998	2010
島根県						
348	66	島根大学医学部附属病院	693-8501 出雲市塩治町89-1	0853-23-2111	1989	2010
349	197	五選厚生年金病院	699-0293 松江市玉湯町湯町1-2	0852-62-1580	1993	2011
350	463	松江赤十字病院	690-8506 松江市母衣町200番地	0852-24-2111	2005	2011
351	465	島根県立中央病院	693-8555 出雲市坂原4-1-1	0853-22-5111	2005	2011
岡山県						
352	64	医療法人和香会会敷済済病院	712-8044 倉敷市東塚5-4-18	086-455-5111	1989	2010
353	109	岡山大学医学部歯学部附属病院	700-8558 岡山市東田町2-5-1	086-223-7151	1990	2011
354	143	総合病院岡山市立市民病院	700-8557 岡山市天満6-10	086-225-3171	1991	2009
355	171	財団法人会敷成人病センター	710-8522 倉敷市白楽町250	086-422-2111	1992	2010
356	172	川崎医科大学附属病院	701-0192 倉敷市松島577	086-462-1111	1992	2010
357	263	金光病院	719-0104 浅口市金光町占見新田740	0865-42-3211	1998	2010
358	331	独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター	701-0304 都窪郡草島町草島4066	086-482-1121	2000	2009
359	376	岡山赤十字病院	700-8607 岡山市青江2-1-1	086-222-8811	2002	2011
360	377	独立行政法人労働者健康福祉機構岡山労災病院	702-8065 岡山市菜港緑町1-10-25	086-262-0131	2002	2011
361	397	倉敷中央病院	710-8602 倉敷市美和1-1-1	086-422-0210	2003	2009
362	505	慈恵会津山中央病院	708-0841 津山市川崎1756	0868-21-8111	2006	2009
363	575	笠岡第一病院	714-0043 笠岡市横島1945	0865-67-0211	2008	2011
広島県						
364	101	広島大学病院	734-8551 広島市南区霞1-2-3	082-257-5555	1990	2010
365	196	尾道市立市民病院	722-8503 尾道市新高山3-1170-177	0848-47-1155	1993	2011
366	212	東広島記念病院 リウマチ膠原病センター	739-0002 東広島市西条町吉行2214	0824-23-6661	1994	2009
367	239	公立みつぎ総合病院	722-0393 尾道市御調町124番地	0848-76-1111	1996	2011
368	264	広島市立広島市民病院	730-8518 広島市中区基町7-3-3	082-221-2291	1998	2010
369	348	県立広島病院	734-8530 広島市南区宇品神田1-5-54	082-254-1818	2001	2010
370	349	公立学校共済組合中国中央病院	720-0001 福山市御幸町大字上岩成148番13	084-970-2121	2001	2010
371	427	広島県厚生連広島総合病院	738-8503 廿日市市地御前1丁目3-3	0829-36-3111	2004	2010
372	428	広島県立身体障害者リハビリテーションセンター	739-0036 東広島市西条町田口295-3番地	082-425-1455	2004	2010
373	506	日立造船健康保険組合広島総合病院	722-2323 尾道市因島土生町2561番地	0845-22-2552	2006	2009
374	507	広島赤十字・原田病院	730-8619 広島市中区千田町1-9-6	082-241-3111	2006	2009
375	543	広島クリニック観音	733-0032 広島市西区東鞆管20-18	082-232-0707	2007	2010
山口県						
376	226	山口大学医学部附属病院	755-8505 宇部市南小串1-1-1	0836-22-2111	1995	2010
377	265	宇部協立病院	755-0005 宇部市五十日山町18-2-3	0836-33-6111	1998	2010
378	332	下関市立中央病院	750-8520 下関市向洋町1-13-1	083-231-4111	2000	2009
379	351	山口県立総合医療センター	747-8511 防府市大崎77番地	0835-22-4411	2001	2010
380	544	総合病院社会保険徳山中央病院	745-8522 高南市孝田町1-1	0834-28-4411	2007	2010
381	576	独立行政法人国立病院機構関門医療センター	751-8501 下関市徳田町1-1-1	083-222-6216	2008	2011
徳島県						
382	379	徳島大学病院	770-8503 徳島市蔵本2-50-1	088-631-3111	2002	2011
383	467	医療法人美摩病院吉野川リウマチセンター	776-0013 吉野川市鴨島町下島497	0883-24-2957	2005	2011
384	545	東洋病院	770-0051 徳島市北島町1丁目160-2	088-632-7777	2007	2010
385	546	三好市国民健康保険市立三野病院	771-2304 三好市三野町芝生1270番地30	0883-77-2323	2007	2010
香川県						
386	173	香川大学医学部附属病院	761-0793 木田郡三木町大字池戸1750-1	087-898-5111	1992	2010
387	241	独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院	763-8502 丸亀市城東町3-3-1	0877-23-3111	1996	2011
388	291	医療法人財団博仁会キナシ大林病院	761-8024 高松市鬼無町藤井435-1	087-881-3631	1999	2011
389	464	屋島総合病院	761-0433 高岡市屋島西町1857-1	087-841-9141	2005	2011
390	508	さぬき市民病院	769-2393 さぬき市寒川町石田東甲387番地1	0879-43-2521	2006	2009
391	547	香川県立中央病院	760-8557 高松市番町5丁目4番16号	087-835-2222	2007	2010
392	578	医療法人社団協志会宇多津浜クリニック	769-0205 綾歌郡宇多津町浜五番丁66-1	0877-56-7007	2008	2011
愛媛県						
393	68	愛媛大学医学部附属病院	791-0295 温泉郡重信町志津川	089-964-5111	1989	2010
394	69	道後温泉病院リウマチセンター	790-0858 松山市道後俣塚乙21-21	089-933-5131	1989	2010
395	70	松山赤十字病院 リウマチセンター	790-8524 松山市文京町1	089-924-1111	1989	2010
396	292	医療法人社団慈生会松山城東病院	790-0915 松山市松末2丁目19番36号	089-943-7717	1999	2011
高知県						
397	227	高知大学医学部附属病院	783-8505 南国市岡藤町小蓮	088-866-5811	1995	2010
398	242	医療法人緑風会海里リウマチ病院	781-0112 高知市仁井田1612-21	088-847-0002	1996	2011
399	380	独立行政法人国立病院機構高知病院	780-8077 高知市朝倉西町1-2-25	088-844-3111	2002	2011

INFORMATION

一連番号	認定番号	施設名	郵便番号/住所	電話番号	認定年度	次回更新
400	468	医療法人光湧会吉井病院	787-0033 四万十市中村大橋通6-7-5	0880-34-5005	2005	2011
401	577	医療法人近森会近森病院	780-8522 高知市大川筋1丁目1-16	088-822-5231	2008	2011
福岡県						
402	71	久留米大学病院	830-0011 久留米市池町67	0942-35-3311	1989	2011
403	78	福岡大学病院	814-0180 福岡市城南区七期7-45-1	092-801-1011	1990	2011
404	144	九州大学医学部附属病院	812-8582 福岡市東区馬出3-1-1	092-641-1151	1991	2009
405	175	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院	800-0296 北九州市小倉南区葛原高松1-3-1	093-471-1121	1992	2010
406	176	産業医科大学病院	807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1	093-803-1611	1992	2010
407	198	宗徳医師会病院	811-3431 宗像市田原5-5-3	0940-37-1188	1993	2011
408	199	福岡島病院	814-0103 福岡市城南区島崎6-8-5	092-831-6031	1993	2011
409	213	独立行政法人国立病院機構九州医療センター	810-8563 福岡市中央区地行浜1-8-1	092-852-0700	1994	2009
410	214	久留米大学医学部附属医療センター	839-0863 久留米市国分町155-1	0942-22-6111	1994	2009
411	228	独立行政法人労働者健康福祉機構門司労災病院	801-8502 北九州市門司区東港町3-1	093-331-3461	1995	2010
412	381	医療法人雪ノ聖母会聖マリア病院	830-8543 久留米市津福本町422	0942-35-3322	2002	2011
413	429	独立行政法人国立病院機構福岡病院	811-1394 福岡市南区屋形原4丁目39-1	092-565-5534	2004	2010
414	470	国家公務員共済組合連合会浜の町病院	810-8539 福岡市中央区舞鶴3-2-27	092-541-0631	2005	2011
415	471	早良病院	819-0002 福岡市西区地浜2-2-50	092-881-0536	2005	2011
416	509	飯塚病院	820-8505 飯塚市芳雄町3-83	0948-22-3600	2006	2009
417	510	福岡達徳病院	810-8798 福岡市中央区薬院2-6-11	092-741-0300	2006	2009
418	548	公立学校共済組合九州中央病院	815-8588 福岡市南区塩原3-2-3	092-541-4936	2007	2010
419	549	直方中央病院	822-0001 直方市大字感田523番地5	0949-26-2111	2007	2010
420	550	福岡県済生会八幡総合病院	805-0050 北九州市八幡東区春の町5-9-27	093-662-5211	2007	2010
421	579	医療法人社団新日経八幡記念病院	805-8508 北九州市八幡東区春の町1-1-1	093-672-3176	2008	2011
422	580	医療法人正明会福岡整形外科病院	811-1201 筑紫郡那珂川町片瀬3-81	092-952-8888	2008	2011
423	581	吉塚林病院	812-0041 福岡市博多区吉塚7丁目6-29	092-621-3706	2008	2011
424	582	北九州市立医療センター	802-0077 北九州市小倉北区馬場2-1-1	093-541-1831	2008	2011
425	583	高井会高木病院	831-0016 大川市大字湯見141番地11	0944-87-0001	2008	2011
426	584	三菱化学株式会社黒崎事業所附属病院	806-0037 北九州市八幡西区東王子町13番1号	093-643-2621	2008	2011
佐賀県						
427	145	佐賀大学医学部附属病院	849-8501 佐賀市鍋島5-1-1	0952-31-6511	1991	2009
428	200	独立行政法人国立病院機構遠野医療センター	843-0393 嬉野市遠野町大字下清丙2436	0954-43-1120	1993	2011
長崎県						
429	146	長崎大学医学部附属病院	852-8501 長崎市坂本町1-7-1	095-819-7200	1991	2009
430	178	佐世保中央病院 リウマチ膠原病センター	857-1195 佐世保市大和町15	0956-33-7151	1992	2010
431	267	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター	856-8562 大村市久原2-1-0-0-1	0957-52-3121	1998	2010
432	294	日本赤十字社長崎康徳病院	852-8511 長崎市茂里町3-15	095-847-1511	1999	2011
433	295	健康保険諺早総合病院	854-8501 諺早市永昌東町24-1	0957-22-1380	1999	2011
434	334	医療法人後藤会後藤会病院	850-0832 長崎市油屋町1-21	095-822-3151	2000	2009
435	472	医療法人南聖会青葉整形外科病院	854-0034 諺早市小野町332	0957-23-2388	2006	2011
436	511	医療法人慧明会貞松病院	856-0831 大村市東本町537	0957-54-1161	2006	2009
437	585	医療法人併助会雲野記念病院	854-0301 雲山市雲野町甲3838-1	0957-36-0015	2008	2011
熊本県						
438	91	熊本整形外科病院	862-0976 熊本市九品寺1-15-7	096-366-3666	1990	2011
439	147	熊本大学医学部附属病院	860-8556 熊本市本荘1-1-1	096-344-2111	1991	2009
440	179	熊本リハビリテーション病院	869-1106 菊池郡菊池町曲手760	096-232-3111	1992	2010
441	180	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター	860-0008 熊本市二の丸1-5	096-353-6501	1992	2010
442	201	熊本市立熊本市民病院	862-8505 熊本市湖東1-1-60	096-365-1711	1993	2011
443	202	医療法人社団寿量会熊本機能病院	860-8518 熊本市山室6-8-1	096-345-8111	1993	2011
444	203	公立玉名中央病院	865-0064 玉名市中1950	0968-73-5000	1993	2011
445	353	熊本赤十字病院	862-8520 熊本市長福南2丁目1-1	096-384-2111	2001	2010
446	430	医療法人社団黎明会宇賀岳病院	869-0502 宇城市松橋町松橋1455-1	0964-32-3111	2004	2010
447	431	山鹿市立病院	861-0593 山鹿市山鹿511番地	0968-44-2185	2004	2010
448	512	独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院	861-1196 合志市須屋2559	096-242-1000	2006	2009
大分県						
449	72	大分大学医学部附属病院	879-5593 由布市扶間町区大が岡1丁目1番地	097-549-4411	1989	2010
450	73	九州大学病院別府先進医療センター	874-0838 別府市大字鶴見字鶴見原4546	0977-27-1600	1989	2010
451	148	独立行政法人国立病院機構別府医療センター	874-0011 別府市内かまど1473	0977-67-1111	1991	2009
452	181	大分赤十字病院	870-0033 大分市千代町3-2-37	097-532-6181	1992	2010
宮崎県						
453	74	宮崎大学医学部附属病院	889-1692 宮崎県清武町木原5200	0985-85-1510	1989	2010
454	268	宮崎県立宮崎病院	880-8510 宮崎市北高松町5-3-0	0985-24-4181	1998	2010
455	269	医療法人善仁会 市民の森病院	880-0122 宮崎市大学塩路2-7-8-3-3-7	0985-39-7630	1998	2010
456	270	独立行政法人国立病院機構都城病院	885-0014 都城市祝言町5-0-3-3-1	0986-23-4111	1998	2010
鹿児島県						
457	182	鹿児島赤十字病院リウマチ膠原病センター	891-0133 鹿児島市平川町2545	099-261-2111	1992	2010
458	215	鹿児島大学医学部附属病院	890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1	099-275-5111	1994	2009
沖縄県						
459	382	豊見城中央病院	901-0243 豊見城市上田25	098-850-3811	2002	2011
460	513	琉球大学医学部附属病院	903-0215 中頭郡西原町字上原207	098-895-3331	2006	2009
461	551	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	901-1193 南風原字新川118-1	098-888-0123	2007	2010

2008年度リウマチ専門医資格認定試験のご案内

2008年度リウマチ専門医資格認定試験が2009年1月18日(日)に都市センターホテルで行われます。
資格認定試験の受験資格者には10月17日(金)に郵送で連絡し、受験料を支払われた方には受験票を12月8日(月)に送付しています。

1. 試験日時：2009年1月18日(日) 13時00分～15時00分
2. 試験場：東京都千代田区平河町2-4-1 都市センターホテル 3F (コスモスホール) TEL. 03-3265-8211
※受付は3Fです
最寄り駅 ■地下鉄 有楽町線「麹町駅」半蔵門方面1番出口より徒歩4分
■地下鉄 有楽町線・半蔵門線「永田町駅」4番・5番出口より徒歩4分
■地下鉄 南北線「永田町駅」9番出口より徒歩3分
■地下鉄 丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」D出口より徒歩8分
3. 試験問題
多選択肢問題を使用いたします。解答はマークシート方式です。
4. 筆記用具
鉛筆 [HB, B]、消しゴム、鉛筆削り等は各自ご持参ください。試験の解答には、鉛筆以外は使用できません。鉛筆以外の筆記具を使用して解答した場合は、無効となります。(サインペン、ボールペンは不可。)
5. 諸注意事項
 - (1) 当日は必ず受験票をご持参の上、12時40分までにご来場下さい。
受験票の写真貼付欄に写真を貼って下さい。なお、受験票裏面の受験上の留意事項をよくお読み下さい。
 - (2) 積雪等で交通機関が混乱することも予想されますので、十分ご留意下さい。
 - (3) 受験に関する問い合わせは、日本リウマチ学会事務局 (TEL. 03-5251-5353) へお願いします。

有限責任中間法人 日本リウマチ学会
専門医資格認定委員会

持続性抗炎症・鎮痛剤 《日本薬局方ナブメトン錠》

指定医薬品
レリフェン[®]錠 400mg
RELIFEN RELIFEN 400 [薬価基準収載]

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元
株式会社 三和化学研究所
名古屋市中区東区東外堀町15番地 465-8631
SKK ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>
原産国 グラクソ・スミスクライン株式会社

資料請求先・問い合わせ先
コンタクトセンター
☎0120-19-8130
受付時間 月～金 9:00～17:00(祝日除く)

エーザイ販売の主な

運動器疾患に対する 治療薬・診断薬

薬価基準収載

検体検査実施科収載

販売開始年

※ 販売提携品

2007

新薬・特定医薬品
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
骨粗鬆症治療剤／骨ペーজেット病治療剤

アクトネル[®]錠17.5mg

(リセドロン酸ナトリウム水和物製剤)

低カルボキシル化オステオカルシンキット

血清中低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)測定用医薬品

ピコルミ[®]ucOC[®]

(電気化学発光免疫測定法)

2002

新薬・特定医薬品
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
骨粗鬆症治療剤

アクトネル[®]錠2.5mg

(リセドロン酸ナトリウム水和物製剤)

2000

新薬・特定医薬品
鎮痛・抗炎症・解熱剤

ロキソプロフェン錠60mg「EMEC」[®]

(ロキソプロフェンナトリウム水和物製剤)

抗ガラクトース欠損免疫グロブリンG抗体キット

血清中抗ガラクトース欠損IgG抗体測定用医薬品

ピコルミ[®]CA・RF[®]

(電気化学発光免疫測定法)

1999

新薬・特定医薬品
経皮吸収型鎮痛消炎剤

フェルピナクテープ70mg「EMEC」[®]

(フェルピナク貼付剤)

1995

骨粗鬆症治療用ビタミンK₂剤

グラケー[®]カプセル15mg

(メナテレン製剤)

1994

新薬・特定医薬品
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
組織活性型鎮痛・抗炎症剤

インフリー[®]Sカプセル200mg

(インドメタシン フアルネシル製剤)

1991

新薬・特定医薬品
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
組織活性型鎮痛・抗炎症剤

インフリー[®]カプセル100mg

(インドメタシン フアルネシル製剤)

1984

末梢性神経障害治療剤

メチコバル[®]錠250μg

(メコバラミン製剤)

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

末梢性神経障害治療剤

メチコバル[®]注射液500μg

(メコバラミン製剤)

1983

新薬
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
筋緊張改善剤

ミオナール[®]錠50mg

(エペリゾン塩酸塩製剤)

1981

末梢性神経障害治療剤

メチコバル[®]錠500μg

(メコバラミン製剤)

● 効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

エーザイは、「運動器の10年」活動のパートナーとして運動を推進してまいります。



運動器10年活動推進

hvc



エーザイ株式会社

〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10
http://www.eisai.co.jp

商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン室

☎0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

SE0809-1 2008年9月作成

Santen



Together

抗リウマチ剤

商品名承認

特許医薬品、処方せん医薬品（注意—説明書の処方せんにより使用すること）

アザルフィジブ[®]EN錠500mg

特許医薬品、処方せん医薬品（注意—説明書の処方せんにより使用すること）

アザルフィジブ[®]EN錠250mg

Azulfidine[®]EN tablets 500mg

Azulfidine[®]EN tablets 250mg

サラシスルファピリジン塩酸塩

■【効能・効果】、【用法・用量】、【禁忌】を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

特許
S **参天製薬株式会社**
大塚の森 東京都中央区本町1-10-10
TEL:03-5561-1111 FAX:03-5561-1112

商品名
ファイザー株式会社
Otsuka
東京都港区新橋2-1-1
TEL:03-5561-1111 FAX:03-5561-1112

抗リウマチ剤

商品名承認

日本薬局方 プシラミン錠

特許、特許医薬品、処方せん医薬品（注意—説明書の処方せんにより使用すること）

リマチル[®]錠100mg

特許、特許医薬品、処方せん医薬品（注意—説明書の処方せんにより使用すること）

リマチル[®]錠50mg

Rimatil[®]tablets 100mg

Rimatil[®]tablets 50mg

■【効能・効果】、【用法・用量】、【禁忌】、【副作用】を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

商品名
S **参天製薬株式会社**
大塚の森 東京都中央区本町1-10-10
TEL:03-5561-1111 FAX:03-5561-1112

抗リウマチ剤

商品名承認

特許、特許医薬品、処方せん医薬品（注意—説明書の処方せんにより使用すること）

メトレート[®]錠2mg

特許、特許医薬品、処方せん医薬品（注意—説明書の処方せんにより使用すること）

Metolate[®]tablets 2mg

メトトレキサート錠

■【効能・効果】、【用法・用量】、【副作用】、【禁忌】を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

商品名
S **参天製薬株式会社**
大塚の森 東京都中央区本町1-10-10
TEL:03-5561-1111 FAX:03-5561-1112

●巻頭言	
生物学的製剤による革命	田中 良哉…1
●JCR2009	
JCR2009日程、セッション、プログラム、事前参加登録のお知らせ、学術集會事務局からのお知らせ	
第18回 国際リウマチシンポジウム	2~4
●コラム	樋野 典夫…5
●開業医からの視点	山前 邦臣/鎌原 聡…6・7
●勤務医からの視点	大西 誠/本荘 茂…8・9
●海外留学体験記	安阿秀剛…10
●ACR2008報告	中澤 隆…11
●APLAR2008報告	西岡 久寿樹…12
●APLAR Fellowship2009	13
●各支部だより	中部支部/関東支部…14・15
●各委員会・理事会報告	16
●JCR2008全国中央教育研修会 大阪大会 報告/JCR支部学術集會	17
●若手からの意見	柏木 聡/福與 俊介…21
●スカラーシップ受賞者印象記	22~23
●INFORMATION	24~33
日本リウマチ学会入会申込書・教育施設一覧・2008年度リウマチ専門医資格認定試験のご案内	
●目次・編集後記・奥付	36

★獣が餌を求めると、人間も「お金」のある方に向かう獣であろうか？ 振り込め詐欺は正に獣である。90年代の日本のバブル崩壊と今回の米国発の金融恐慌も同じ穴の貉で、市場原理主義の結果である。一方NHKの驚退が絶好調で終わろうとしている。西郷の江戸城無血開城決断には、島津斉彬への忠義と惻隱の心がある。徳川将軍家は「城を渡しても“徳川の心”を守る」と言った。かかる武士道精神を世は求めているという証であろう。残念ながら現在の医療現場には欠けているようであるが、樋野先生のがん哲学外来の底流にはその精神が流れている。（天野宏一）

★第53回日本リウマチ学会総会・学術集會 井上和彦会長がご逝去されました。先生とは以前東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センターで整形外科医として一緒に働かせて頂き、様々な事を先生より学びました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げたいと思います。（橋原茂樹）

★連日のように医療現場について報道され、国民の不満や不安が鬱積しているようです。しかし、若手医師、開業医、勤務医の先生方からの原稿では、みなさん熱意をもって真摯に患者の治療にあたっていることがうかがえます。その姿勢に教わることも多く、患者さん達にもこういった医師の存在が広く伝わればと思います。来年はもっと明るいニュースが増えますように。（浅沼ゆう）

★今年もたくさんの先生方にコラムのご執筆をいただき感謝いたします。どのコラムもリウマチ学の診療・教育・研究について様々な視点から書かれてあり、読んで楽しいだけでなく感心させられることもしばしばでした。来年も内容をよりいっそう充実させていきます。今号は今年最後となります。来年も会員の皆様にとってよい年でありますように。（武内 徹）

★リウマチ治療に大きな進歩があった一年でしたが、年の瀬を迎えて悲報が飛び込んで参りました。謹んで井上和彦先生のご冥福をお祈り申し上げますとともに、来る年も「心をひとつに」リウマチ医療に邁進したいと思います。（三浦靖史）

●ご意見をお聞かせください

Newsletter「リウマチ」では会員の皆様のご意見・ご要望を募集しております。下記メールアドレスまでお寄せください。
E-mail: n1@ryumachi-jp.com

●情報化委員会 担当理事：木村友厚
ニュースレター小委員会 委員長：天野宏一/副委員長：橋原茂樹/委員：浅沼ゆう・武内徹・三浦靖史

ニュースレター 2008年・第20号 発行日2008年12月19日
発行者 有限責任中間法人 日本リウマチ学会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F
TEL: 03-5251-5353 FAX: 03-5251-5354
E-mail: gakkain@ryumachi-jp.com URL: http://www.ryumachi-jp.com
デザイン・制作 クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5
TEL: 03-5215-6560 FAX: 03-5215-6560 E-mail: creat-m2@sea.plala.or.jp
印刷社 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4
TEL: 03-3591-1025 FAX: 03-3295-0846



完全ヒト型可溶性TNF α /LT α レセプター製剤

薬価基準収載



エンブレル[®]皮下注25mgシリンジ0.5mL

ENBREL[®]25mg Syringe 0.5mL for S.C. Injection エタネルセプト(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品[®]

注) 注意一表等での処方せんにより使用すること

注意 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元
Wyeth **ワイズ株式会社**
〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号
<http://www.wyeth.jp/>

販売
武田薬品工業株式会社
〒540-8645 大阪市中央区道頓堀町南1丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

資料請求先：ワイズ株式会社 ワイスくすりの情報室 〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号

2008年10月作成



抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レミケード®点滴静注用100

REMICADE® for I.V. Infusion100

インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤

【生物由来製剤】 【凍結】 【凍結再溶解】 【処方せんに記載あり】 【注意-医師等の処方せんにより使用すること】

■ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



製造販売元(資料請求先)

田辺三菱製薬株式会社

大阪市中央区道修町3-2-10

2008年3月作成